有明町埋蔵文化財発掘調査報告書（1）

県営特殊農地保全整備事業（中野地区）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

札元（ふだもと）遺跡・山原（やんばる）遺跡

1985年3月

鹿児島県曽於郡有明町教育委員会

序　　文

有明町には，原田古墳，伊崎田，とっこ丘古墳，山重，平野古墳等いくつかの古墳群があり，また，町内いたるところで縄文・弥生時代の遺物も発見されており埋蔵文化財包蔵地の豊富な所であります。

本町では，文化財保存の重要性に鑑み，遺跡の調査保存整備や民俗文化財の調査資料収集並びに埋蔵文化財の調査等も行っています。

ところで，現在，農業振興に伴い，特殊農地保全整備事業による土地開発事業が実施されていますがこの地域は，札元遺跡といい埋蔵文化財遺跡包蔵地であります。

そこで，遺跡保存のため県教育庁文化課から調査員を派遣して発掘調査を直接担当していただきました。ここに記録保存としてこのほど報告書をまとめました。

調査を終えるにあたり，確認調査から報告書の刊行にいたるまで御指導，御協力いただいた県教育庁文化課の先生方ならびに関係者の皆様方に深く感謝申しあげます。

昭和６０年３月

有明町教育委員会

教育長　森園盛義

例　　言

1．本報告書は，有明町教育委員会が文化庁及鹿児島県の補助を得て，昭和59年度に実施した中野地区の発掘調査報告書である。

2．執筆分担は次の通りである。

第1章・第3章・第4章・第5章 …… 牛ノ浜
第2章 …… 中　村
第3章・第4章・第5章 …… 弥　栄

3．本書に用いたレベル数値は海抜絶対高である。

4．遺物番号は，札元遺跡・山原遺跡で通し番号を付し，遺物番号と本文中の番号・図版番号は同一である。

目　　次

序　文
例　言
第1章　調査の経過 …… 5
　第1節　調査に至るまでの経過 …… 5
　第2節　調査の組織 …… 5
　第3節　調査の経過 …… 5
第2章　遺跡の位置及び環境 …… 8
第3章　札元遺跡 …… 16
　第1節　調査の概要 …… 16
　第2節　層序 …… 16
　第4節　遺物 …… 18
第4章　山原遺跡 …… 21
　第1節　調査の概要 …… 21
　第2節　層序 …… 21
　第3節　遺構 …… 22
　第4節　遺物 …… 23
第5章　まとめ …… 28

挿　図　目　次

第１図　遺跡の位置および周辺遺跡 …… 7
第２図　山ノ口遺跡採集土器(1) …… 11
第３図　山ノ口遺跡採集土器(2) …… 12
第４図　地形図 …… 13
第５図　札元・山原遺跡範囲 …… 14
第６図　札元遺跡のトレンチ配置図 …… 15
第７図　札元遺跡土層図 …… 17
第８図　札元遺跡出土土器 …… 18
第９図　札元遺跡出土石器 …… 19
第10図　山原遺跡トレンチ配置図 …… 20
第11図　第１トレンチ遺物出土状況 …… 22
第12図　第２トレンチ遺物出土状況と断面図 …… 22
第13図　山原遺跡出土土器(1) …… 24
第14図　山原遺跡出土土器(2) …… 25
第15図　山原遺跡出土石器(1) …… 26
第16図　山原遺跡出土石器(2)（石斧） …… 27

表　目　次

第１表　周辺遺跡一覧 …… 9
第２表　土器諸訳 …… 23

図版１　１．札元遺跡遠景(北から)　２．札元遺跡近景(南から) …… 29
図版２　土層 …… 30
図版３　１．横転層　２．土層 …… 31
図版４　山ノ口遺跡採集土器 …… 32
図版５　山ノ口遺跡採集土器 …… 33
図版６　１．札元遺跡出土土器　２．札元遺跡出土石器 …… 34
図版７　１．山原遺跡近景（西から）　２．第２トレンチ …… 35
図版８　１．第１トレンチ焼土部　２．石斧出土状況 …… 36
図版９　１．第２トレンチ土層　２．山原遺跡出土土器 …… 37
図版10　１．山原遺跡出土土器　２．№68土器拡大 …… 38
図版11　山原遺跡出土土器 …… 39
図版12　山原遺跡出土石器 …… 40

第１章　調査の経過

第１節　調査に至るまでの経過

県営特殊農地保全事業（中野地区）に伴う埋蔵文化財の取り扱いについて，鹿児島県大隅耕地事務所，有明町耕地課，有明町教育委員会，鹿児島県文化課と協議した結果，周知の遺跡，札元遺跡，山原遺跡が含まれることから確認調査を実施することになり，昭和59年度国・県の補助事業として，有明町教育委員会が主体となり発掘調査を実施した。

調査期間は，昭和59年８月20日より９月５日まで行い，その後の遺物の整理作業と報告書の作成は，県文化課に依頼した。

第２節　調査の組織

調査主体者	有明町教育委員会	
調査責任者	〃　教育長	森園盛義
	〃　社会教育課長	上野淳一
	〃　〃　係長	持冨秀明
	〃　〃　主事	福留俊一
調査担当	鹿児島県教育委員会	
	文化課　主事	牛ノ浜　修
	〃　〃	弥栄久志
	〃　〃	中村耕治
	〃　〃	井上秀文
指導助言者	鹿児島県考古学会長	河口貞徳

なお調査企画において，鹿児島県教育委員会文化課長　桑原一廣，同課長補佐　坂口肇，主幹　中村文夫，主任文化財研究員　諏訪昭千代・向山勝貞等の他，管理係の指導・助言を得た。

第３節　調査の経過

発掘調査は，昭和59年８月20日から同年9月５日まで行ったが，経過は日誌抄により以下略述する。

８月21日（火）　雨の為，作業中止。有明町教育委員会にて打合せ

８月22日（水）　発掘調査開始。説明後基準杭打ち。札元遺跡の範囲確認の為の表面採集。遺跡全体と区割すれど調査がむずかしく，畑地に沿ってトレンチ設定。第１・２・３トレンチ設定後掘り下げ。

８月23日（木）　第１トレンチⅢ層（暗黄褐色土）で縄文晩期の土器出土。

8月24日（金）　第4・5・6トレンチ設定後掘り下げ。

8月27日（月）　第7トレンチ設定後掘り下げ。

8月28日（火）　札元遺跡第2トレンチ断面図作成。山原遺跡の範囲確認の為の表面採集。工事区域内に縄文晩期の遺物集中個所有り。大隅耕地事務所・有明町教育委員会・文化課と協議の結果，山原遺跡の確認調査を行う。

8月29日（水）　山原遺跡第1トレンチ設定後掘り下げ。
札元遺跡第1トレンチ平板実測。第6トレンチ土層図実測。第1～7トレンチ配置平板実測。

8月30日（木）　山原遺跡第2・3トレンチ設定後掘り下げ。
札元遺跡第8・9トレンチ設定後掘り下げ。

8月31日（金）　山原遺跡第2・3トレンチ平板実測。第1トレンチ拡張。第4トレンチ設定後掘り下げ。

9月3日（月）　山原遺跡第1・2トレンチ平板実測。

9月4日（火）　山原遺跡第4トレンチ平板実測。全体図平板実測。

9月5日（水）　山原遺跡第2トレンチ平板実測。
札元遺跡第8・9トレンチ平板実測。
埋め戻し終了。発掘用具・遺物収蔵庫へ，発掘調査終了。
町社会教育課終了あいさつ。

重富収蔵庫にて報告書作成

第1図　遺跡の位置および周辺遺跡

第 2 章　遺跡の位置及び環境

有明町は曽於郡の南部に位置し，北東部で松山町，北西部で大隅町，東部で志布志町，西部で大崎町と隣接し，東南部では約1.7㎞が志布志湾に面している。地形は北東部に日南層群からなる山地があるが，その他はほとんどがシラス台地である。台地は菱田川，田原川などの大小河川により開析され，それらの河川に浸食されて出来た河岸段丘や，沖積平野に水田が形成されている。又，野井倉と蓬原の水田は明治～昭和にかけて開田されたもので野井倉開田として有名である。

町内の遺跡は昭和49年，53年，55年，58年に大隅地区埋蔵文化財分布調査の一環として，鹿児島県教育庁文化課により分布調査が実施され，各時代の遺跡が町内全域にわたって確認されている。昭和58年度の大隅地区埋蔵文化財分布調査概報によると，縄文時代45ケ所，弥生時代41ケ所，歴史時代14ケ所が報告されているが，各時代が重複している遺跡もあり，遺跡の数としては93ケ所があげられる。

札元遺跡，山原遺跡は昭和58年度の調査により確認された遺跡であるが，遺跡の存在する大字伊崎田地区は小河川が台地をえぐるように入り込んでおり，縄文時代を中心に数多くの遺跡が存在する所である。

周辺遺跡

周辺の遺跡は別表の通りであるが，室田郎遺跡（30）は昭和53年に文化課により確認調査が行われており，縄文時代晩期の遺物が出土している。山ノ口遺跡（29）は広範囲にわたる遺跡で，しかも縄文時代早期，前期，中期，後期，弥生時代等の土器が見られ，長期間にわたり生活がなされたものと思われる。しかしながら現在ではほとんど壊滅状態である。松ケ尾遺跡（５），黒葛Ａ遺跡（６），黒葛Ｂ遺跡（７），大迫遺跡（９），社ケ段Ａ遺跡（11），上ノ原Ａ遺跡（24），仮屋Ａ遺跡（36），仮屋頭遺跡（35）などは昭和58年度の調査により確認された遺跡である。松ケ尾遺跡では縄文時代早期の前平式土器（角筒土器）や縄文時代晩期の黒色研磨土器が採集されている。上ノ原Ａ遺跡では14～15世紀の竜泉窯系の青磁，葛蒲田遺跡（23）では縄文時代早期の石坂式土器，前平式土器，仮屋Ａ遺跡では縄文時代早期の前平式土器，縄文時代後期の土器，仮屋Ｂ遺跡（39）では縄文時代前期の平栫式土器，縄文時代晩期の組織痕（蓆目）土器，弥生時代前期の土器がそれぞれ採集されている。又仮屋頭遺跡では鉄滓が多量に採集され，製鉄跡が相定されるものである。土橋遺跡（32）においては弥生時代の青銅製の銅鉾が出土しており，鹿児島県においては唯一の青銅器文化の遺物である。

古墳時代においては，高塚墳や地下式横穴の存在が古くより知られている。馬場地下式横穴は第２次世界大戦以前に初めて発見され，その後４基が確認されているもので，人骨や鉄器が出土している。大隅半島の地下式横穴においてはここのものが東限と思われる。このような地下式横穴は原田大塚古墳群の中においても昭和55年に発見され，文化課により調査が行われた。

この原田地下式横穴は玄室が長方形のプランで，切妻の家形を呈している。玄室内には軽石製組合せ石棺が置かれていた。人骨は頭を原田大塚古墳の方に向けて埋葬されてあり，大塚古墳と密接な関係にあったものと思われる。又，人骨は長崎大学の解剖学教室の調査により，女性の成人骨であることが判明しており，被葬者はシャーマン（巫女）的な人物であったのではなかろうかと想定され，今後に問題を残すものである。副葬品は少なく，鉄製の刀子が，玄室内に一本あっただけである。

第1表　周辺遺跡一覧

番号	遺跡名	所在地	時代	出土遺物	概報番号
1	山原	伊崎田山原	縄文（晩）		46
2	札元	〃 札元	縄文（後）		45
3	鹿藤	〃 鹿藤	縄文（後）		
4	牛ケ迫	〃 牛ケ迫	縄文（晩）弥生	石鏃	26
5	松ケ尾	〃 松ケ尾	縄文（早・前）歴史	前平式，打製石斧，土師器	27
6	黒葛A	〃 黒葛	縄文（後），歴史	土師器	23
7	黒葛B	〃 〃	歴史	土師器	24
8	黒葛C	〃 〃	縄文，弥生		25
9	大迫	〃 大迫	縄文（晩）		28
10	いせんぼ	〃 社ケ段	縄文（後・晩），弥生	磨製石斧	29
11	社ケ段A	〃 〃	縄文（後）		30
12	茗ケ谷A	〃 茗ケ谷	弥生		36
13	茗ケ谷B	〃 〃	縄文（中・後）		37
14	社ケ谷B	〃 社ケ谷	歴史	土師器	31
15	縄瀬A	〃 縄瀬	縄文（晩）歴史	土師器	32
16	坂之下	〃 坂之下	縄文		33
17	縄瀬B	〃 縄瀬	弥生		34
18	鍋古墳	〃 鍋	古墳	円墳	35
19	飯野	〃 飯野	縄文（晩）		38
20	丸岡A	〃 丸岡	縄文		39
21	丸岡B	〃 丸岡	弥生		40
22	牧ノ口	〃 牧ノ口	縄文（晩）	剝片石器	41
23	葛蒲田	〃 葛蒲田	縄文（早）	石坂式，前平式	44
24	上ノ原A	〃 上ノ原	縄文，歴史		43
25	上ノ原B	〃 上ノ原	縄文（前，晩）	平栫式	42
26	中野	〃 中野	弥生		49
27	岩下	〃 岩下			50
28	伊崎田	〃	縄文（中・後）	阿高式，指宿式	48
29	山ノ口	〃 馬場迫	縄文（早，前，中・後，晩），弥生	押型文，変形撚紋，塞ノ神式 指宿式，市来式，石斧，石皿，石鏃	47
30	室太郎	〃 平・宮田	縄文（前，晩）		51
31	風八重	〃 風八重	縄文（晩），弥生		52
32	土橋	野井倉土橋	縄文（後），弥生（中）	銅鉾	65
33	坪山	〃 坪山	弥生（後），古墳	石斧	64

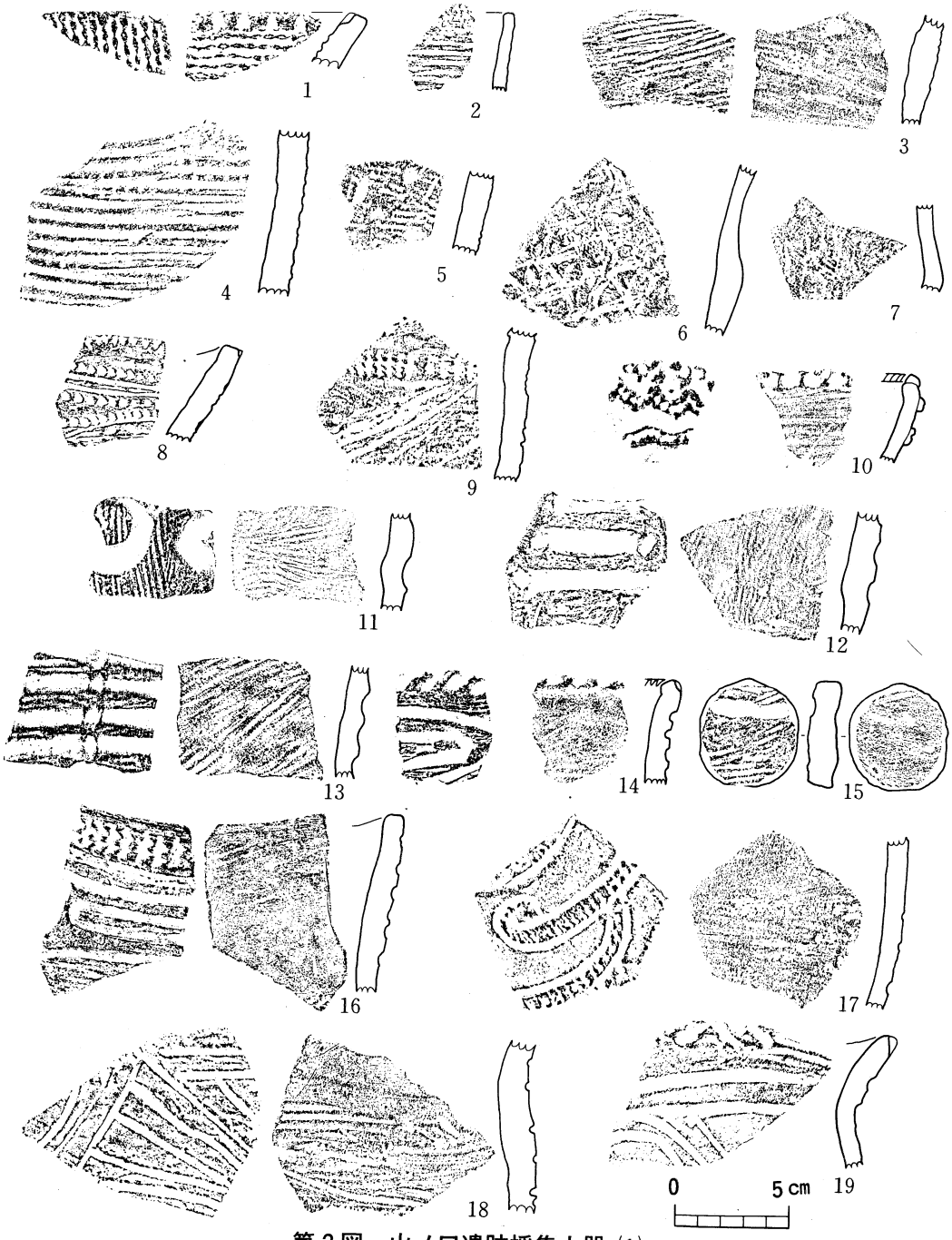
番号	遺跡名	所在地	時代	出土遺物	概報番号
34	西之迫	伊崎田西之迫	縄文(早,後)	石坂式，吉田式	53
35	仮屋頭	野井倉仮屋頭	縄文（後），歴史	土師器，鉄滓	54
36	仮屋A	〃 仮屋	縄文（早，後）	前平式	55
37	向段A	蓬原向段	歴史	土師器	71
38	向段B	〃 〃	縄文（後）		72
39	仮屋B	野井倉仮屋	縄文（前，晩），弥生（前），歴史	平栫式，打製石斧	56
40	西ノ谷	〃 西ノ谷	弥生		57
41	向原	〃 向原	縄文（晩），古墳	打製石斧,円墳(牧ノ内古墳)	58
42	楠原古墳	蓬原楠原	古墳	円墳	74
43	楠原	〃 〃	弥生		73
44	屋部頭	〃 屋部当	弥生		75
45	天神	野井倉天神	弥生	人骨，（洞穴）	59
46	中川	〃 中川	縄文（後）歴史	三万田式，土師器	60
47	出水	〃 出水	縄文（晩）歴史（室町）	打製石斧，青磁	61
48	平尾	〃 平尾	縄文		62
49	吉村	〃 吉村	弥生	石鏃，打製石斧	63
50	馬場地下式横穴	蓬原馬場	古墳（地下式横穴）	人骨，鉄剣，槍	77
51	大園原	〃 大園原	弥生（中）		78
52	蓬原	〃 楠原	縄文（後）	出水式，打製石斧	79
53	下野井倉	野井倉下野井倉	弥生		66
54	上高吉	〃 上高吉	縄文（中，晩），弥生	石皿	67
55	飯山	〃 飯山	縄文（中，晩），弥生		68
56	片平	〃 片平	弥生（後），古墳	石斧	80
57	片平古墳	〃 〃	古墳	円墳	81

※概報番号は『昭和58年度大隅地区埋蔵文化財分布調査概報』の中の遺跡番号である。

山ノ口遺跡（29）採集土器（第2図，第3図）

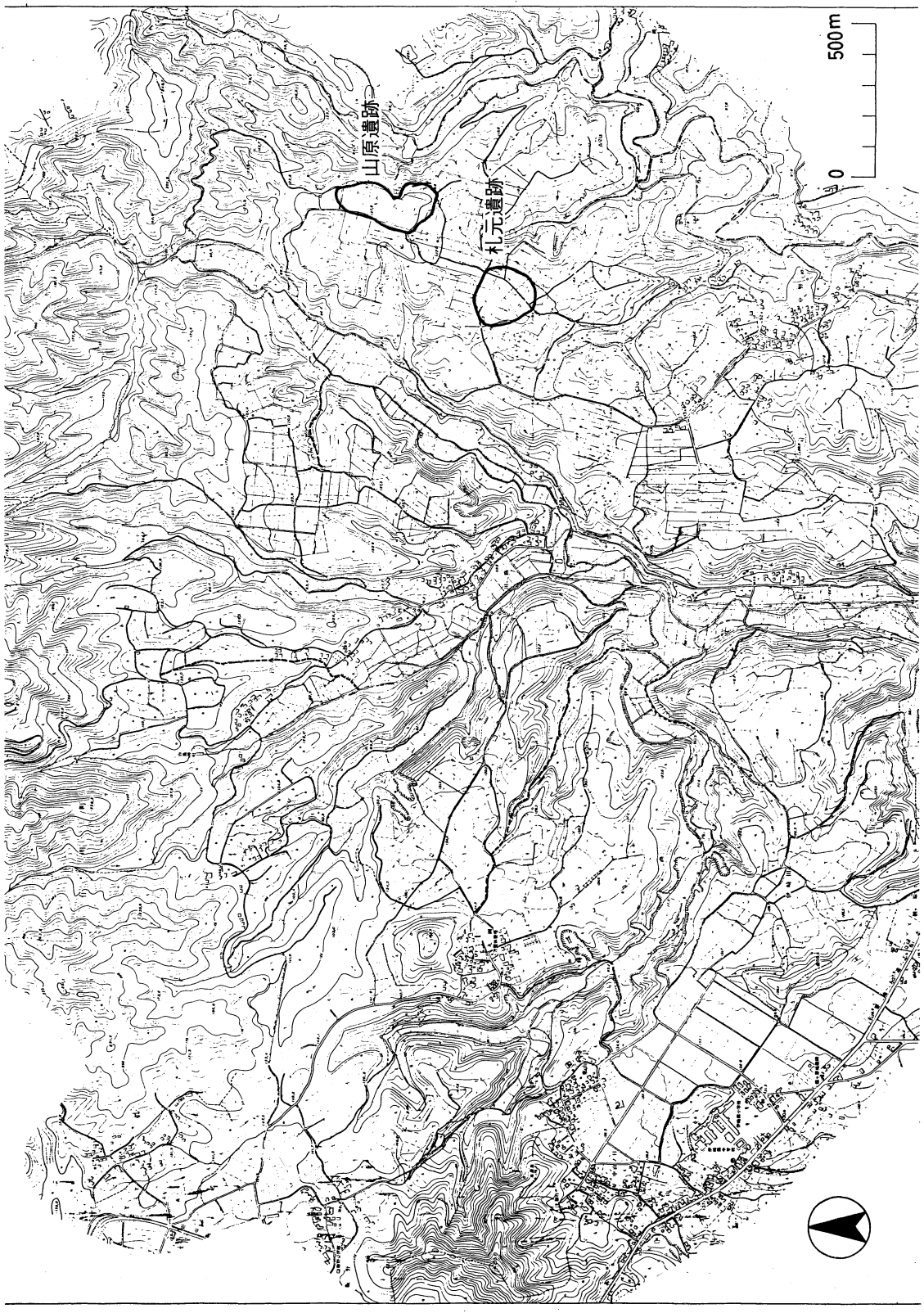
1～7は縄文時代早期と思われる。1は押型文土器。内外面に楕円押型文を施す。2～5は貝殻文円筒形土器，2，4は吉田式系，3・5は前式式系と思われる。6・7は変形撚糸文を施す。8～10は縄文時代前期と思われる。8・9は塞ノ神式土器，10は春日式土器である。11～13は縄文時代中期と思われる。太目の凹線文を施すものである。14～38は縄文時代後期と思われる。14～16は凹線文を施し，口縁部に刻みを有するもので岩崎上層式と思われる。15は『めんこ』と呼称される土製品である土器片の二次使用で周囲はきれいに面とりがしてある。17～21は指宿式土器と思われる。沈線文，貝殻刺突文，刺突文などを施す。22,23は磨消縄文土器である。22は口唇部，23は口縁下位に磨消縄文を施す。24，25は大平式に類似したものである。口縁部が肥厚し，その部分に山形等の沈線文を施す。26は口縁部に山形を重複させたような沈線文を施すもので，24，25と同系統のものと思われる。27～33は市来式土器と思われる。口縁部が肥厚し断面三角形を呈するもの，口縁下位に突帯状のものを有するもの，口縁部が肥厚しないものとに分けられる。口縁部も山形になるものと平坦なものがある。貝殻刺突文，沈線文

などを施す。34～38は縄文時代後期土器の底部である。34，35は網代底，36は木の葉底である。37は貝殻条痕が顕著である。38は高台状のあげ底。39，40は縄文時代晩期と思われる。39は組織痕土器で網目圧痕文が認められる。40は口縁径38cmを測る。口縁部は内湾し，外面に2条の沈線文を巡らす。41は弥生時代中期と思われる。いわゆる山ノ口式土器である。壺形土器の肩部で，三条の三角形貼付突帯を巡らす。外面はハケ目調整痕が認められる。

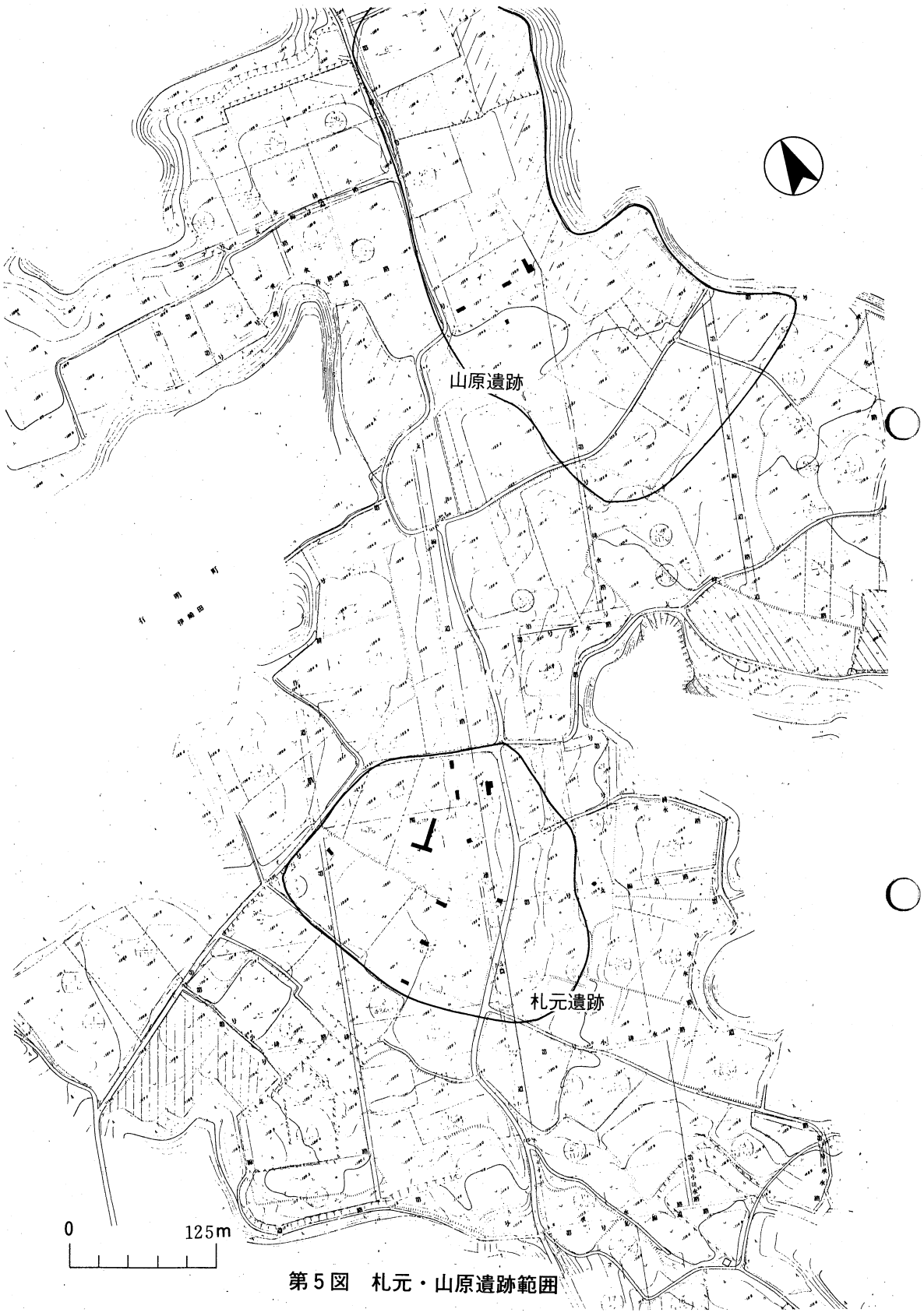


第2図　山ノ口遺跡採集土器 (1)

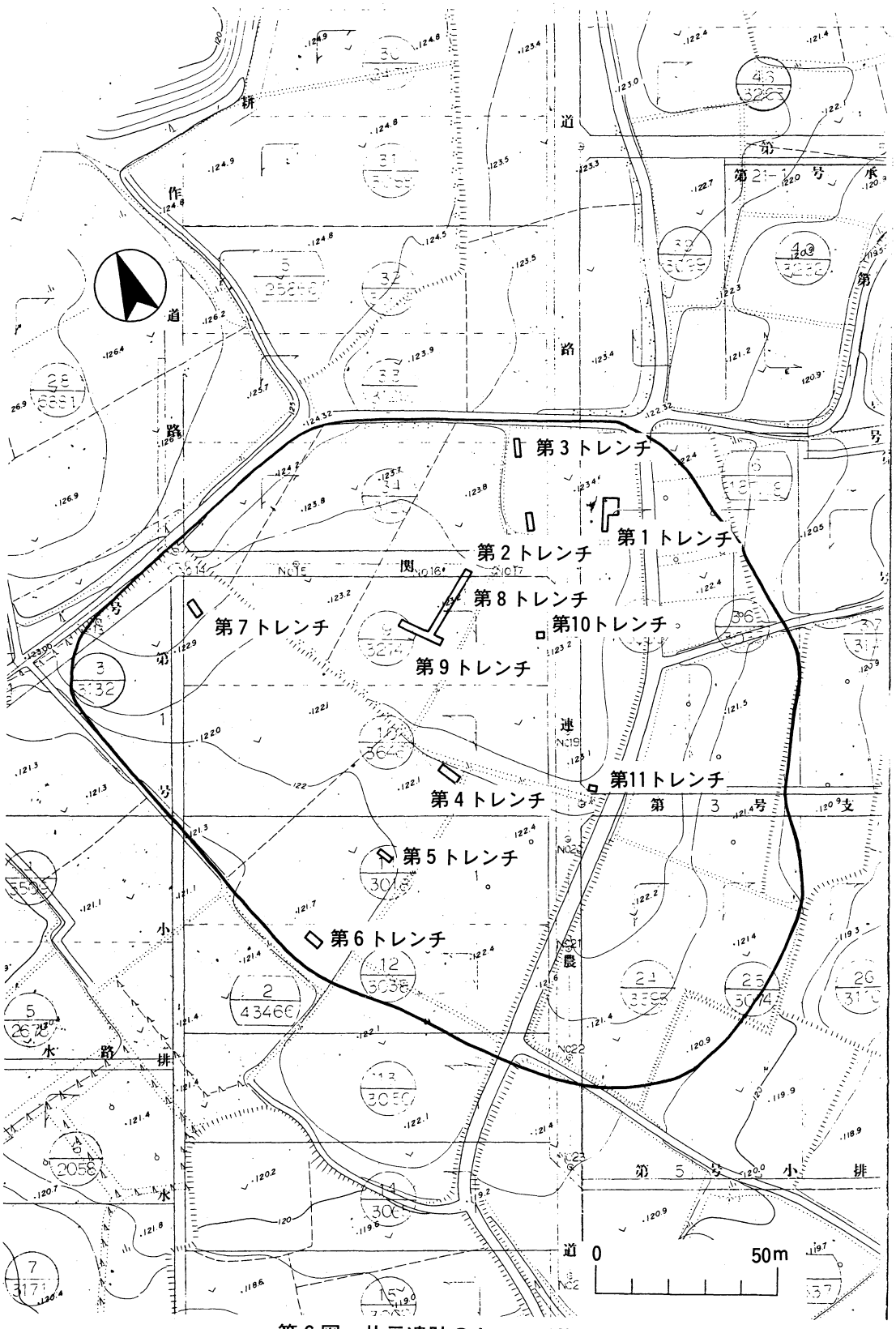
第3図　山ノ口遺跡採集土器 (2)



第4図　地　形　図



第５図　札元・山原遺跡範囲



第6図　札元遺跡のトレンチ配置図

第３章　札元遺跡

第１節　調査の概要

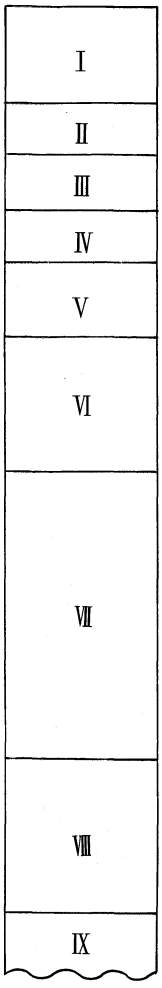
札元遺跡は伊崎田台地の東側に位置し，標高約115～120ｍの舌状台地のゆるやかな傾斜地に立地する。縁辺部は深い谷になり安楽川の支流となっている。

今回の確認調査では地形等を考慮して，２ｍ×５ｍを基本とするトレンチを７本設定し，その他，畑地の作物等を考慮して計11本のトレンチによって確認調査を実施した。

各トレンチの調査によって遺構こそ検出できなかったが，縄文時代晩期の土器・石器が出土した。また範囲は第１～３トレンチを中心とした地域であった。

第２節　層　序

Ⅰ層からⅨ層に分けられた。



Ⅰ層　耕作土（下部には大正３年の桜島降灰がみられる）

Ⅱ層　黒褐色有機質土層（黒ニガ）

Ⅲ層　暗黄褐色土層
縄文後期の土器・石器を出土する。

Ⅳ層　黄褐色パミス層
霧島御池起源のパミスに対比できる。

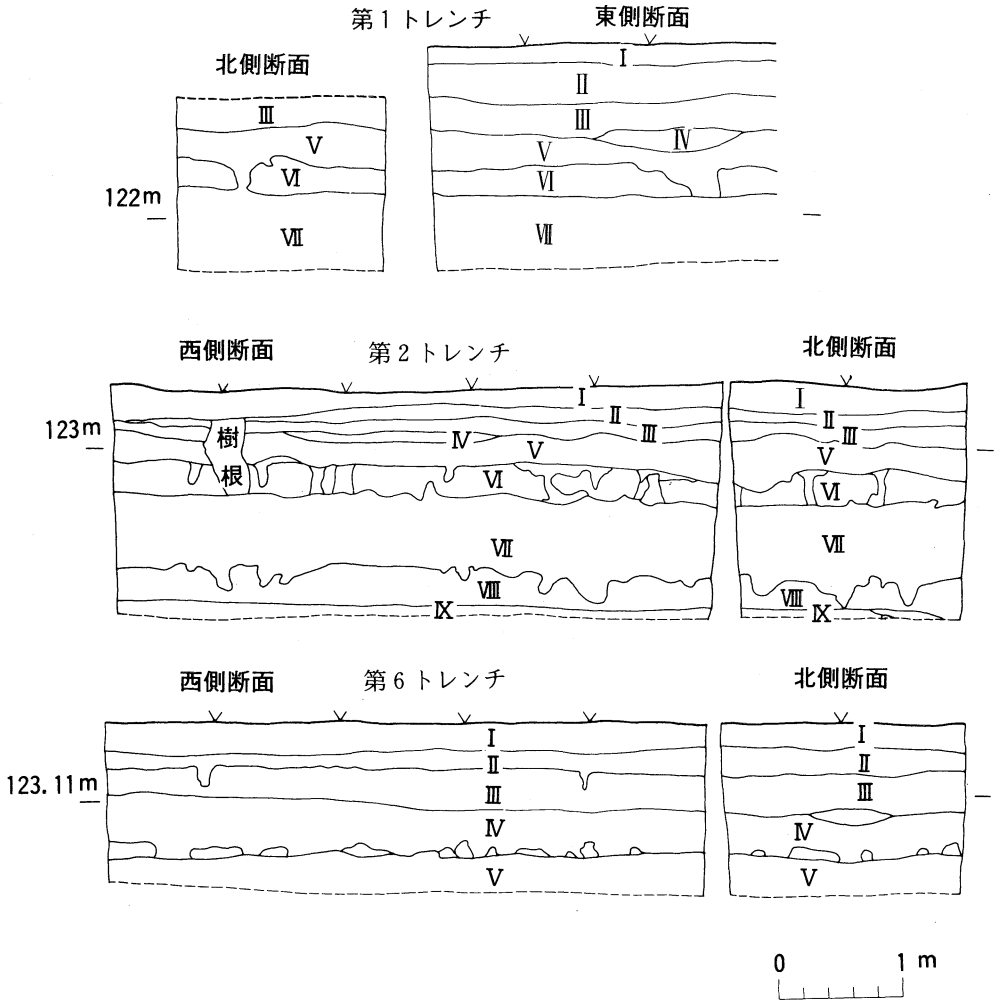
Ⅴ層　黒褐色土層

Ⅵ層　黄褐色軟質土層で，通称赤ホヤ，赤ボッコと呼ばれるものである。下部はパミス層になり，鬼界カルデラ起源の幸屋火砕硫に対比できる。幸屋火砕硫の年代は，6065～6400年Ｂ．Ｐ．が与えられている。

Ⅶ層　黒褐色硬質土層

Ⅷ層　暗茶褐色粘質土層

Ⅸ層　黄褐色土層（パミス層）



第７図　札元遺跡土層図

Ⅰ層　耕作土

Ⅱ層　黒褐色有機質土層

Ⅲ層　暗黄褐色土層

Ⅳ層　黄褐色パミス層

Ⅴ層　黒褐色土層

Ⅵ層　黄褐色軟質土層

Ⅶ層　黒褐色硬質土層

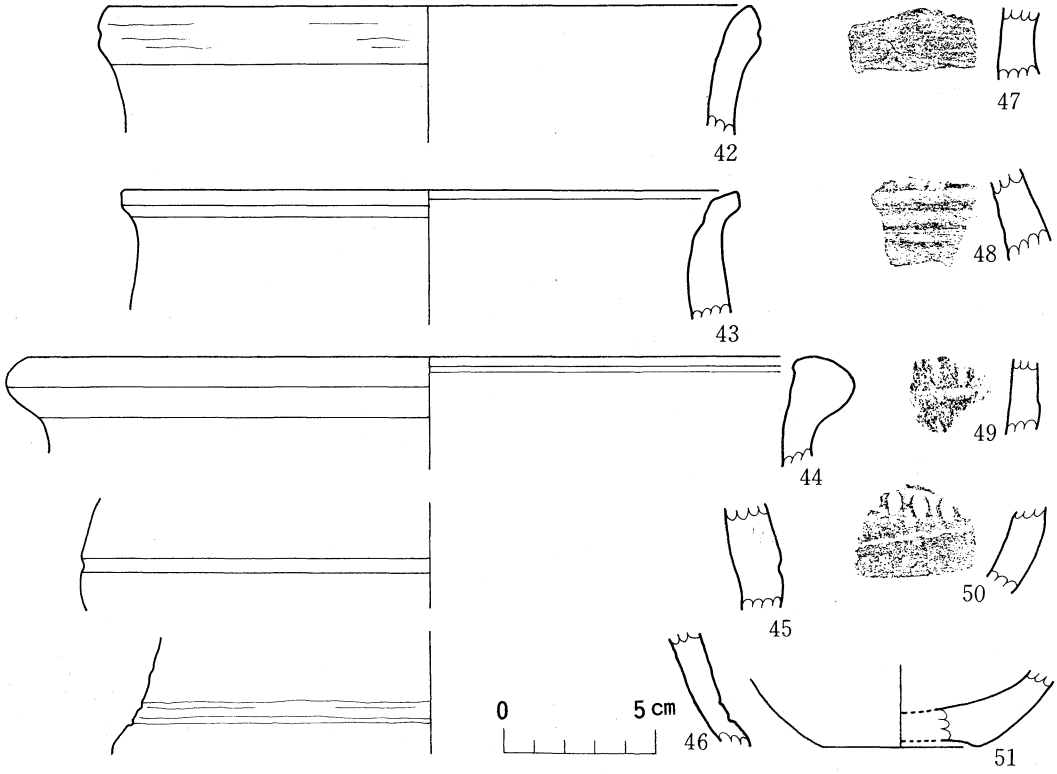
Ⅷ層　暗茶褐色粘質土層

Ⅸ層　黄褐色土層（パミス層）

第4節　遺　物

(1)　土器

本遺跡の中心は縄文後期の土器である。42は2トレンチと8トレンチ2層下部より出土した土器で口径22cmのの深鉢形土器である。口縁部は若干肥厚し，沈線が一条みられ，外反する。色調は口褐色で胎土は黒褐色の細砂を使用している。焼成は良い。43は8トレンチ2層下に出土し，口縁部が「く」字状に外反し，肥厚帯が狭い深鉢形土器である。色調は暗茶褐色で胎土は細砂を使用している。焼成は良い。44は9トレンチ2層下に出土し口縁部が丸味をもつ肥厚帯で口唇部では若干内側に舌帯がみられる深鉢形土器である。色調は暗茶褐色で，胎土は細砂を使用している。45は9トレンチ2層下部深鉢形土器の肩部である。沈線が一条あり，焼成は良い。胎土は細砂を使用している。46は1トレンチ3層上部より出土した土器で肩部に一条の沈線がみられる。胎土は細砂を使用し，焼成は良い。色調は暗茶褐色である。47は9トレンチ2層下部より出土した深鉢形土器で2条の沈線がある肩部である。色調は暗茶褐色で胎土は細砂を使用している。焼成は良い。47・48は1トレンチ3層上部に出土した深鉢形の土器である。胎土は細砂を使用し，色調は暗茶褐色を呈す。焼成は良い。49は8トレンチ2層下部に出土した深鉢形の土器である。色調・胎土は47・48と同じである。50は深鉢の胴部で9トレンチ2層下部に出土している。色調・胎土は47・48と同じである。51は8トレンチ2層下部に出土した底部である。上げ底で肥土・色調は前と同じである。

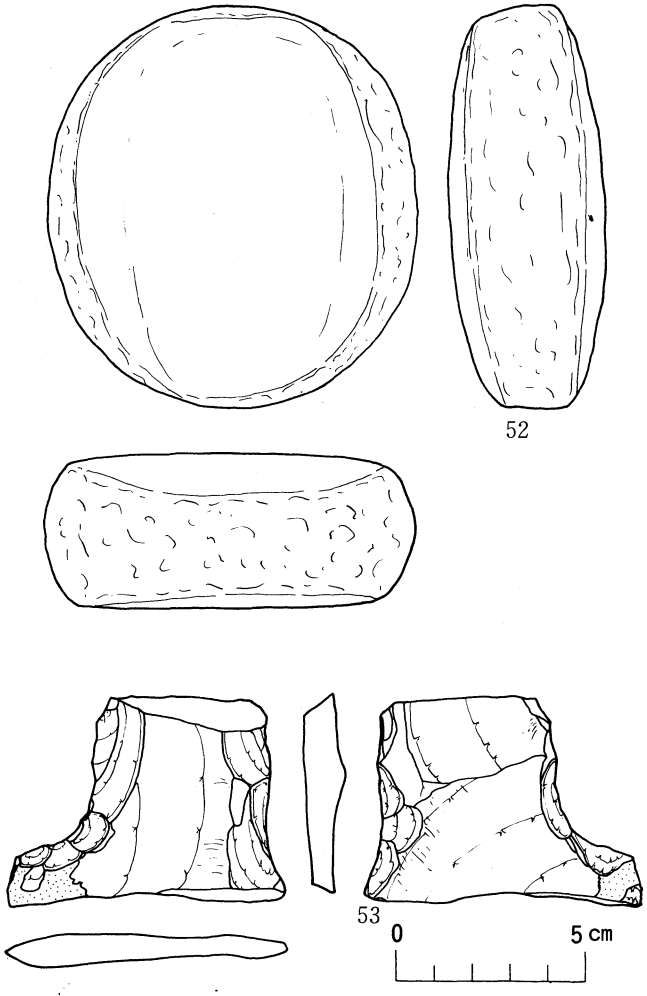


第8図　札元遺跡出土土器

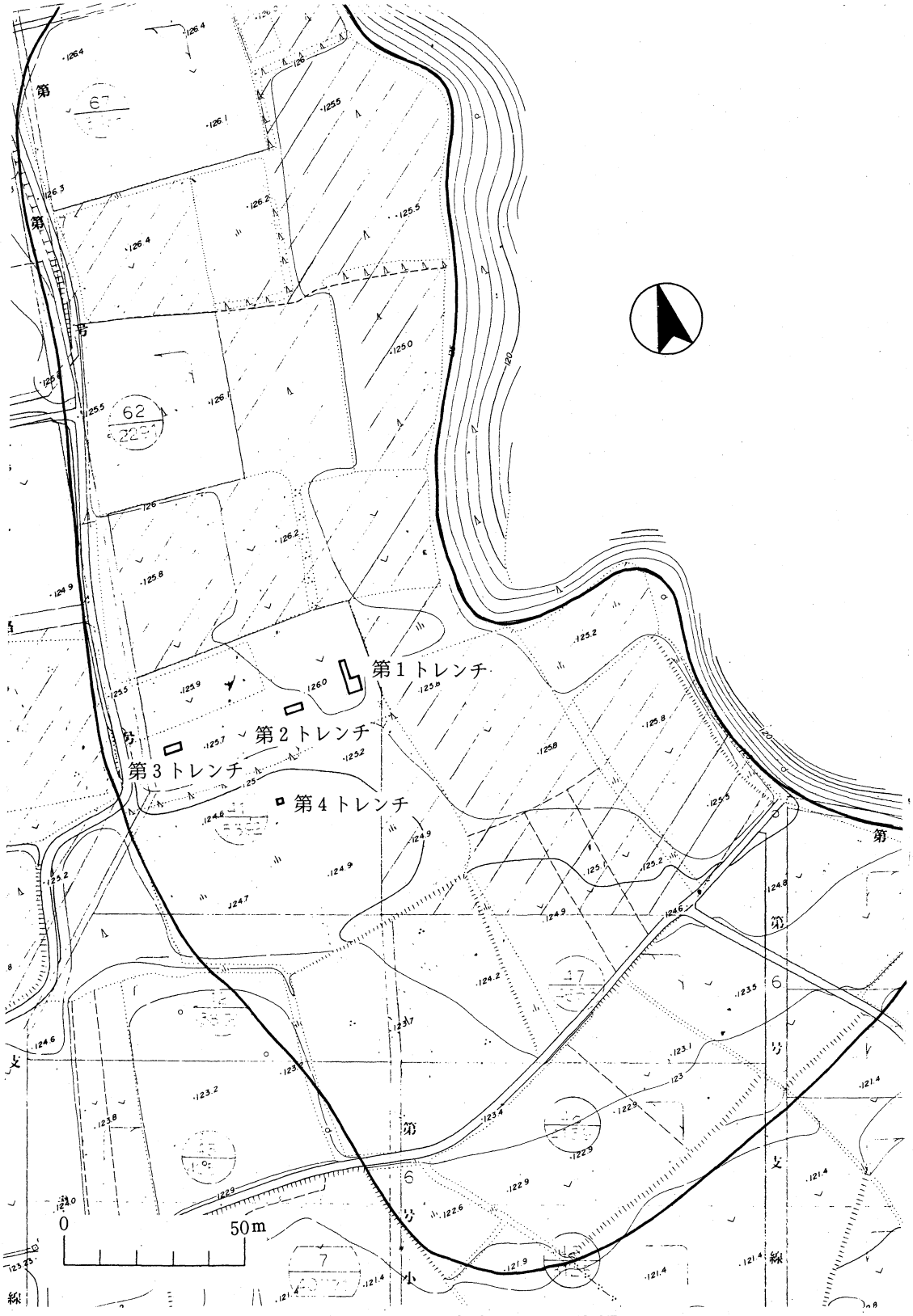
(2) 石器

石器は磨石と石斧の2点出土した。磨石は石材に砂岩を使用し，8トレンチ，Ⅱ層（黒褐色有機質土層「黒ニガ」）より出土し，最大長10.4cm，最大幅9.5cm，厚さ3.8cm，重量680gである。表裏とも研磨痕がみられ．周縁部に敲打による打撃痕がみられる。

石斧は，玄武岩を石材に利用した有肩の局部磨製石斧である。刃部を欠損しているが重量は52gである。第9図の実測図で点描で表わした部分は研磨痕である。基部のみで全体の器形は不明であるが，肩部の張り出し部は研磨によって刃部を形成している。やはり8トレンチのⅡ層下部よりの出土である。



第9図　札元遺跡出土石器



第10図　山原遺跡トレンチ配置図

第４章　山原遺跡

第１節　調査の概要

山原遺跡は札元遺跡の北方約300ｍにあり標高約125ｍの舌状台地北端部に立地する。縁辺部は深い谷になり，安楽川の支流となっている。山原遺跡は札元遺跡同様，昭和58年度の大隅分布調査によって確認された。当初は札元遺跡の調査であったが，工事区域内に山原遺跡が含まれることを知り遺跡周辺の工事区域内を踏査の結果，縄文時代晩期の遺物が散布していた。そこで，大隅耕地事務所，県文化課，町教育委員会は協議を重ね，山原遺跡についても確認調査を行うこととした。

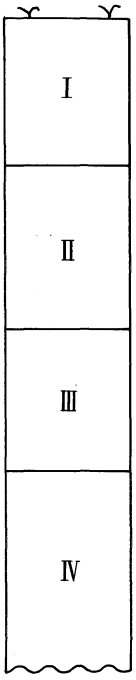
確認調査は，遺物散布が多くみられた地域を中心に２ｍ×５ｍのトレンチを３本設定し，１トレンチは遺構の検出が考えられたので拡張を行い，杉林の中には２ｍ×２ｍのトレンチで確認を行った。

確認調査の結果，縄文晩期の土器・石器が出土し，また焼土等の遺構も検出された。

遺跡の範囲は，第１・２トレンチを中心とする地域に多くみられたが，第10図の太線の枠内が遺跡包含地域と推定される。

第２節　層　序

層序は，札元遺跡と同様であるが，遺構・遺物のみられたⅢ層下部で掘り下げをやめた。



Ⅰ層　耕作土

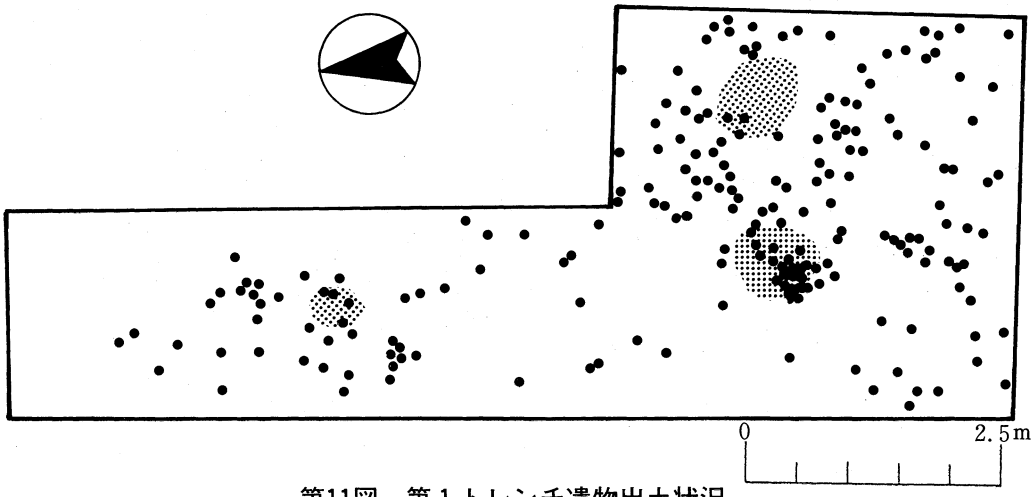
Ⅱ層　黒褐色有機質土層（黒ニガ）

Ⅲ層　暗黄褐色土層
縄文晩期の土器・石器を出土する

Ⅳ層　黄褐色パミス層
御池（霧島）起源のパミスに対比できる。

下位は調査未了の為確認できなかったが，隣接地に地層断面の露呈している崖面があり参考ながら下位の層位が確認できた。それは，札元遺跡と同様であり，次のようになっている。

黒褐色土層・黄褐色軟質土層（赤ホヤ）・黒褐色硬質土層・暗茶褐色粘質土層・黄褐色土層（パミス層）・シラス

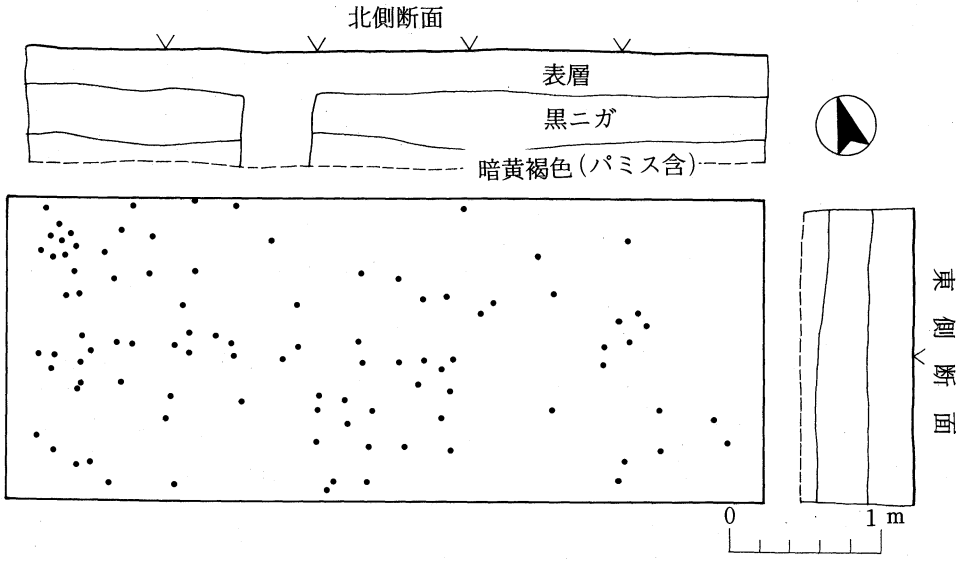


第11図　第１トレンチ遺物出土状況

第３節　遺　構

第１トレンチの第Ⅲ層（暗黄褐色土層）に３ケ所焼土部が検出された。当初第１トレンチは２ｍ×５ｍの設定であったが，トレンチ中央部で，長軸80㎝×短軸70㎝の範囲に炭・灰が堆積している個所が検出された。そのため，北へ５ｍ，東へ４ｍ×２ｍ拡張し遺構検出にとりかかった。その結果，約１ｍ東側にも直径約80㎝の焼土が，また約４ｍ北側にも直径50㎝の焼土が検出された。柱穴等の検出はなされず，またそれ以上の掘り下げを行わなかったため遺構の詳細は不明である。

第２トレンチでは若干のくぼみがみられたが土坑・柱穴等の遺構は検出されなかった。



第12図　第２トレンチ遺物出土状況と断面図

第4節　遺　物

1．土器

深鉢形土器（54～74）

54～74は深鉢形土器である。54は「く」字形の口頸部である。口縁部は若干肥厚し，頸部で段が付く。色調は暗茶褐色で器面には条痕がある。胎土は小礫混りで細砂を使用している。焼成は良い。55も口縁部で大きく「く」字になる。色調・胎土・器面調整は54と同じである。56は頸部から胴部にかけての土器である。肩部で「く」字状に屈接する。胎土・焼成・器面調整は同じである。57は口縁部である。58は頸部から肩部にかけての土器で「く」字に屈接する。59は口縁部から肩部にかけての土器で頸部と肩部で「く」字状に屈接する。60・61・62・63・66・67は肩部で「く」字状に屈接する。65・68は胴部である。調整および色調・胎土は54と胴じである。

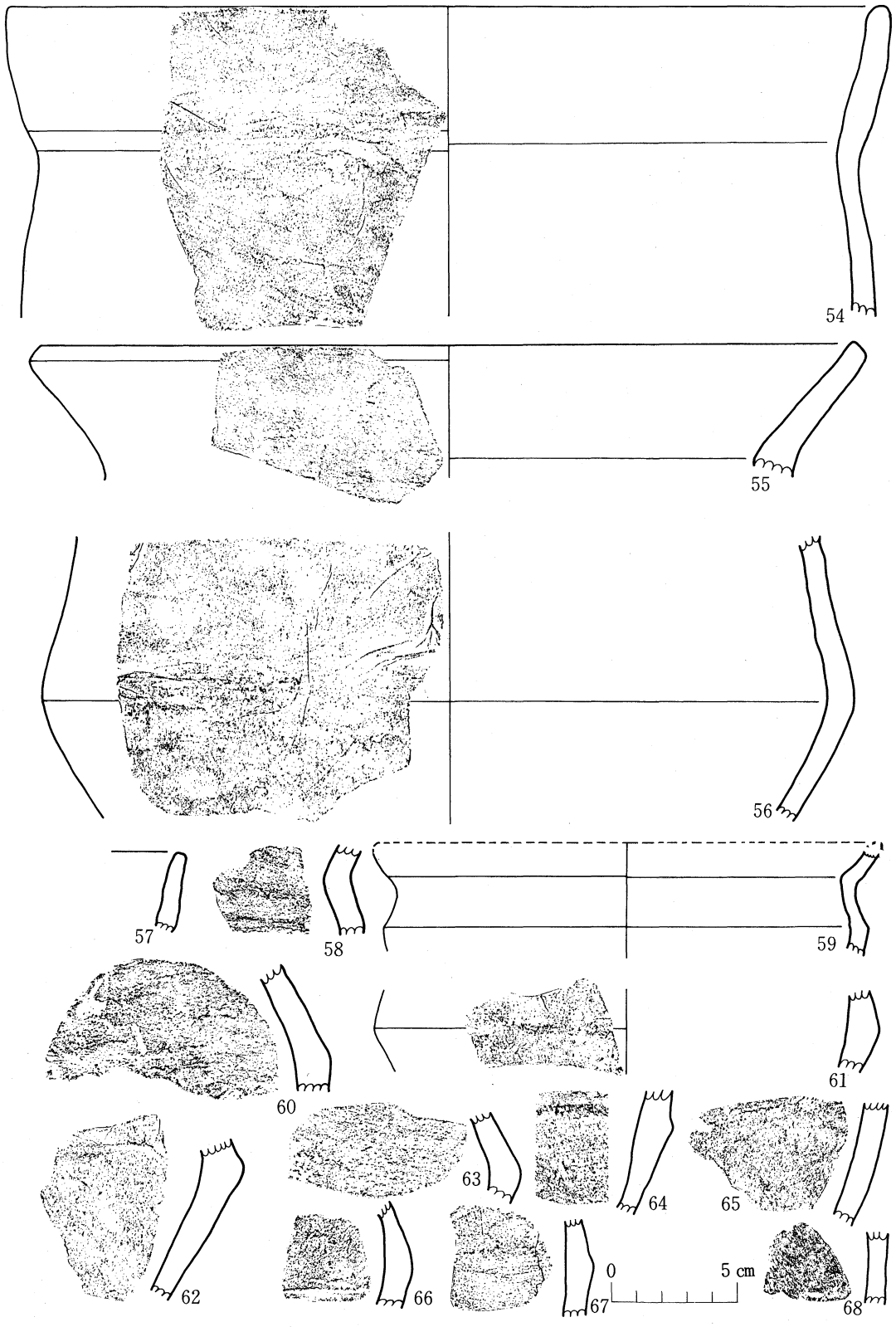
69～74は底部である。平底で69・70・73・74が張りがみられ，71・72はない。胎土は小礫と細砂で色調は茶褐色を呈す。

浅鉢形土器（75～87）

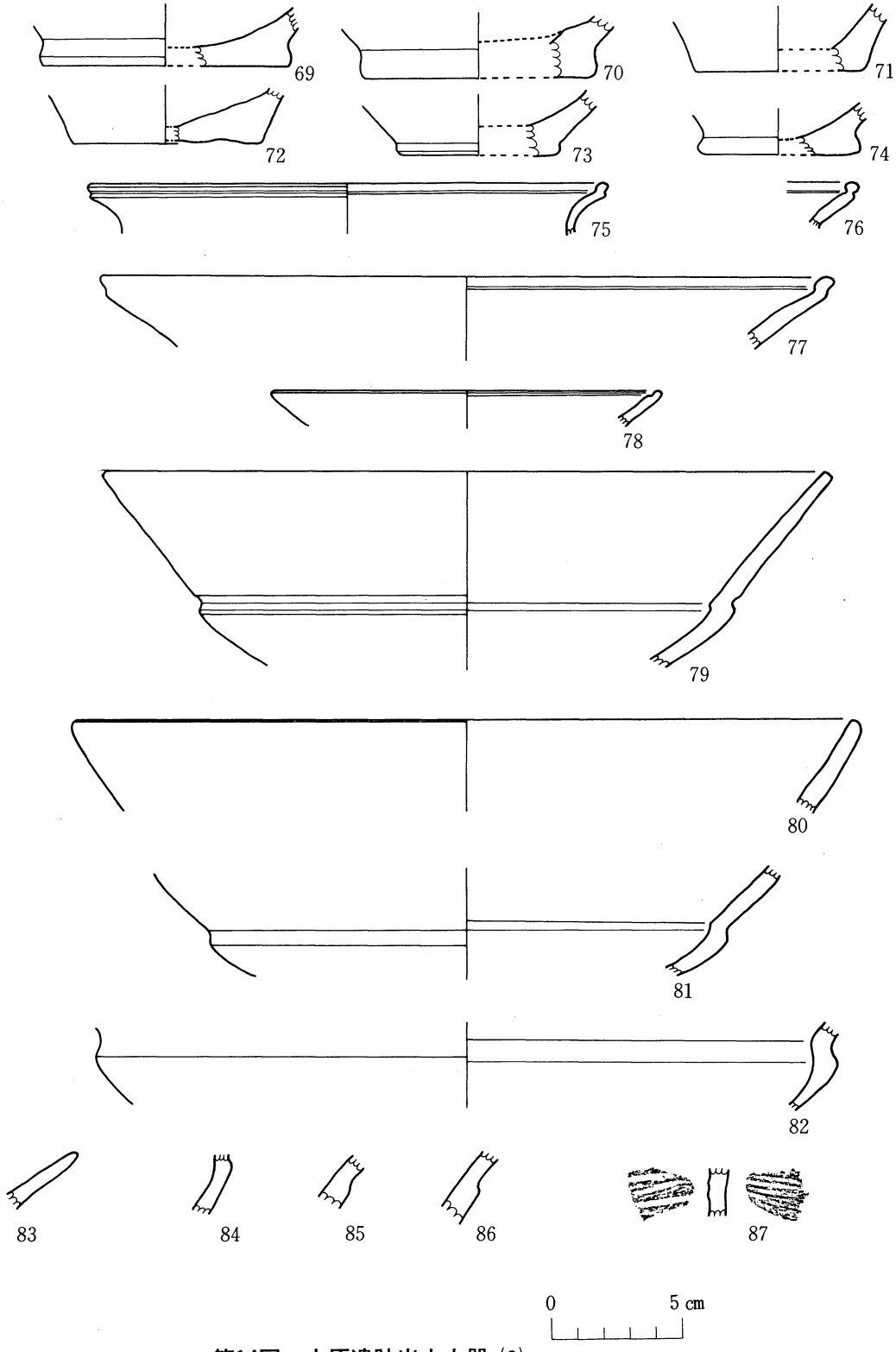
78～87は浅鉢形土器である。75～77は黒色研磨土器で口縁部が玉縁断面を呈す土器である。75は深味のある口頸部で，76・77は深味が少ない。胎土は細砂を使用して，焼成は良い。78は口縁内面に一条の沈線を施しているもので胎土・焼成は75・76と同じである。79は口縁部は直線状に呈している。頸肩部は短く屈接している。80は口縁部で77と同じである。81は79と同形と思われる。82は頸肩部が若干長い。83は口縁部で79と同形と思われる。84～86は79と同じ形態の肩部である。87は黒色研磨土器である。これらは75と同様な胎土・焼成・色調を呈している。

第2表　土　器　諸　訳

番号	トレンチ	層	備　考	番号	トレンチ	層	備　考	番号	トレンチ	層	備考
54	1	2下	深鉢形土器	67	2	2	深鉢形土器	80	2		〃
55	1	2下	〃	68			〃	81	2		〃
56	1	2下	〃	69	2		浅鉢形土器	82	1		〃
57	1	2下	〃	70	1		〃	83	1		〃
58			〃	71			〃	84	1		〃
59	1	2下	〃	72	2		〃	85	2		〃
60	1	2下	〃	73			〃	86	2		〃
61			〃	74			〃	87	2		〃
62	1	2下	〃	75	2		〃				
63	1	2下	〃	76			〃				
64	2	2	〃	77	2		〃				
65			〃	78	1		〃				
66	2		〃	79	2		〃				



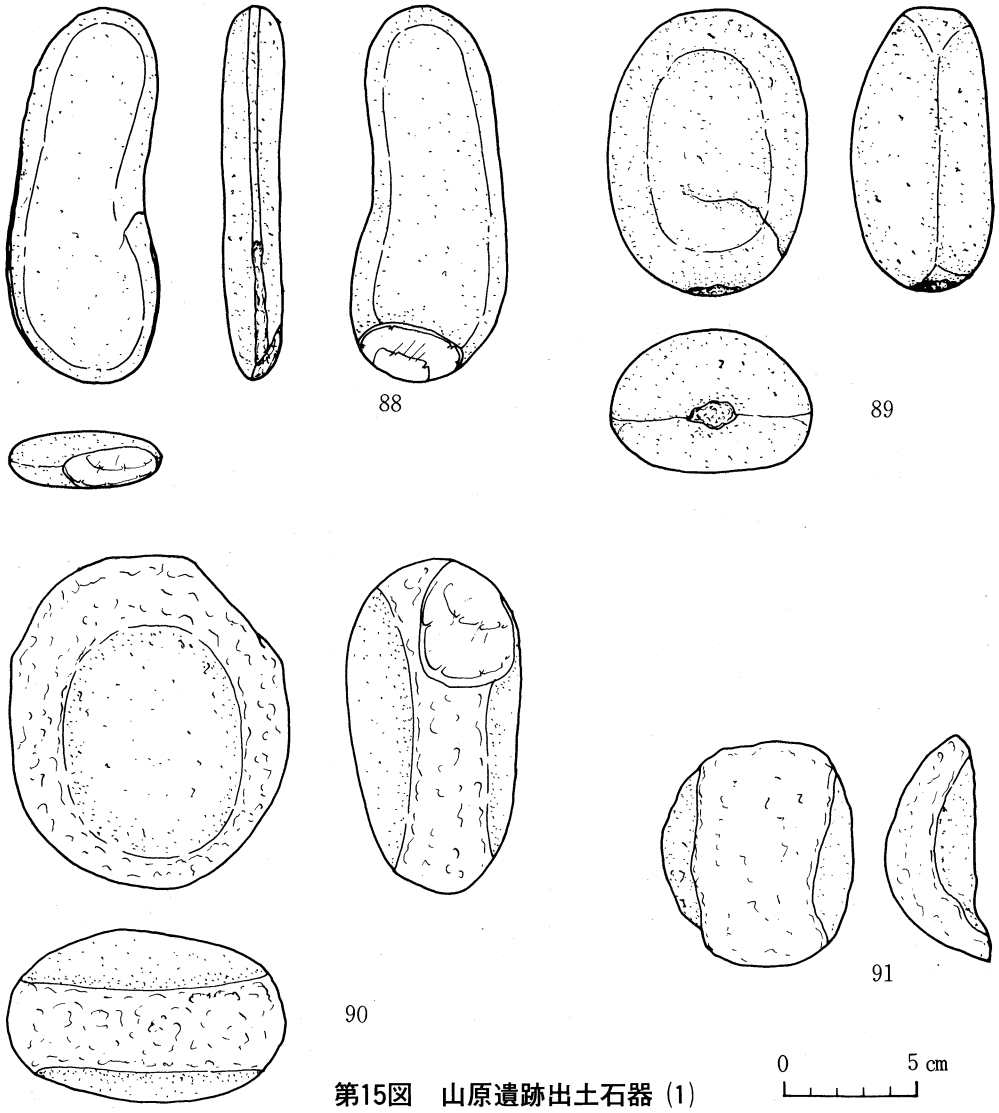
第13図　山原遺跡出土土器（1）



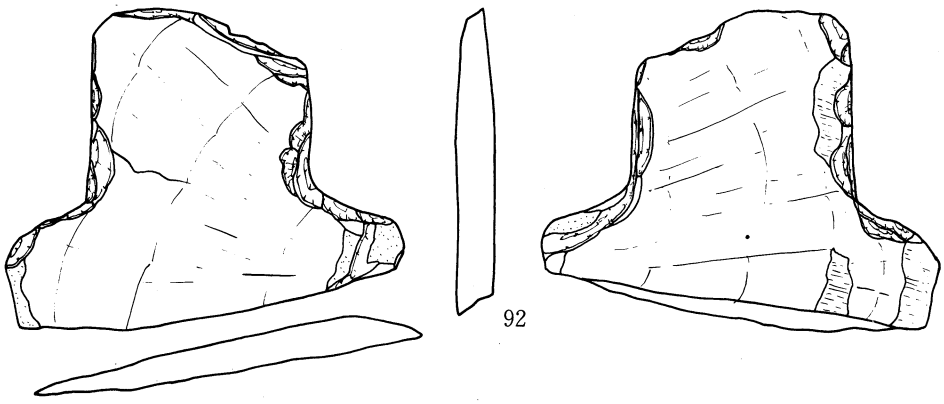
第14図　山原遺跡出土土器（2）

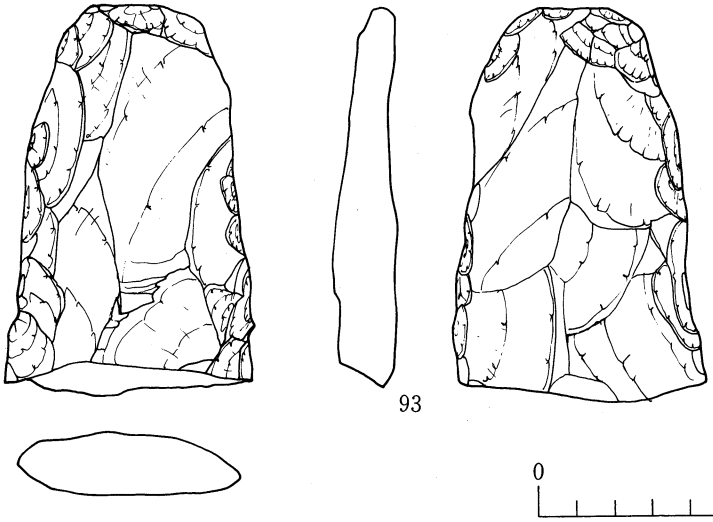
2．石器

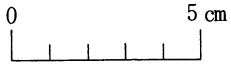
山原遺跡出土の石器は総数10点出土した。敲石（88・89），磨石（90・91），石斧（92・93），黒曜石剝片である。88は扁平な砂岩の自然石を利用したもので側縁部に敲打痕がみられる。表面採集の資料で最大長13.9cm，最大幅5.8cm，厚さ1.8cm，重量270ｇである。研磨はみられない。89も砂岩の自然礫を利用したもので長軸方向の一端に敲打痕がみられる。１トレンチⅡ層より出土し，最大長さ11.0cm，最大幅7.2cm，厚さ4.5cm，重量620ｇである。90は花崗岩を石材とする磨石である。１トレンチⅡ層下部より出土し，最大長12.6cm，最大幅10.5cm，厚さ5.2cm，重量1165ｇを測る。表裏とも研磨痕がみられ，周縁部には敲打による打撃痕がみられる。91も磨石で，砂岩を石材に利用している。１トレンチ２層より出土し，重量は230ｇである。敲打による打撃痕がみられる。92は玄武岩を石材に利用し，刃部は欠損しているが有肩石斧である。２トレンチⅡ層出土である。第16図の実測図では研磨痕の方向のわかるものはそのままにし，



第15図　山原遺跡出土石器（1）







第16図　山原遺跡出土石器 (2)（石斧）

研磨痕の不明な個所は点描で表わした。刃部が欠損しているため全体の器形は不明であるが肩部の張り出し部は研磨によって刃部を形成している。93も玄武岩を利用した石斧である。これも刃部が欠損しているが短冊状の石斧と思われる。2トレンチⅡ層の出土である。現残存最大長10.3cm，幅6.5cm，厚さ1.7cm，重量154ｇである。

黒曜石の剝片は1トレンチⅡ層から出土したもので使用痕等はみあたらない。石材は気泡が多く，大口市日東，鹿児島市三船の原産地と類似するが，根占町長谷にも同様の黒曜石の産地がある。地域等より長谷の黒曜石と考えられる。

第５章　まとめ

札元遺跡の土器は鹿児島県末吉町の中岳洞穴[1]や，同町の野田後遺跡[2]に出土している土器に比定される。中岳洞穴では中岳Ⅱ類に属し，口縁部が肥厚したり，蒲鉾状断面を呈する口縁部をもつ深鉢形土器である。肩部には沈線や刻目を施している。底部は上げ底で丸味をもっている。

この土器は口縁部や，肩部の形態からみると時期的には縄文後期，三万田式土器相当ならびにそれ以降の時期とおもわれ，御領式土器の間に考えられる。ちなみに，中岳洞穴では西平式土器と三万田式土器の間に編年[3]されている。

石器の中には有肩の扁平局部磨製石斧が１点出土している。

山原遺跡の土器は末吉町諏訪方入佐遺跡[4]より出土した土器に類似している。この時期は晩期前半に比定され，晩期初頭の上加世田式[5]の後に位置されている。

甕形土器は口縁部が外反し，頸部で段をもちながら「く」字状に屈接するものや，段がなく屈折するものがある。胴部は稜をもちながら「く」字状に屈接する。底部は平底で若干張り出しがみられる。

浅鉢形土器は口縁部に玉縁断面をもつものと，もたないものが出土している。とくに玉縁断面をもたない土器は肩部に於いて短く「く」字状に屈接する器形である。

入佐式土器の特徴としては深鉢では口頸部で段をもち，肩部までの高さが低く，平底をもっている。浅鉢としては口縁部に玉縁断面がなく，肩部が短く「く」字状に屈接する形態が上げられる。

入佐式土器は本遺跡以外にも末吉町の箱根遺跡[6]や，中岳洞穴[7]，野田後遺跡[8]等に出土しており南九州における晩期前半の土器として注目される。

石器の中には局部磨製の有肩打製石斧が出土している。この石器は扁平で形態上農耕具の鋤を連想させる。札元遺跡にも１点出土しており，これらの類例が増すことによって，性格が明確になると思われ，今後の研究を待ちたい。

また土器片の内側に種子痕が圧痕されていた。この種子の種類は不明であるが，籾がらが裏返しに圧痕された状態にみられる。この種子圧痕は専門家の鑑定が必要であろう。

このように札元・山原遺跡は縄文後・晩期の貴重な遺跡であることが判明した。そこで，大隅耕地事務所，鹿児島県文化課，有明町教育委員会は協議をかさね，一部設計変更を行い現状及び盛土等により遺跡を保護することになった。

（引用文献）

註１　河口貞徳「中岳洞穴」末吉町教育委員会昭55年

註２　弥栄久志・立神次郎「箱根・前畑・真方入口・通山上川路・野田後遺跡」末吉町教育委員会昭60年

註３　註１と同じ

註４　河口貞徳「入佐住居跡」『末吉町郷土誌』末吉町教育委員会

註５　河口貞徳「上加世田遺跡」加世田市教育委員会

註６　註２と同じ

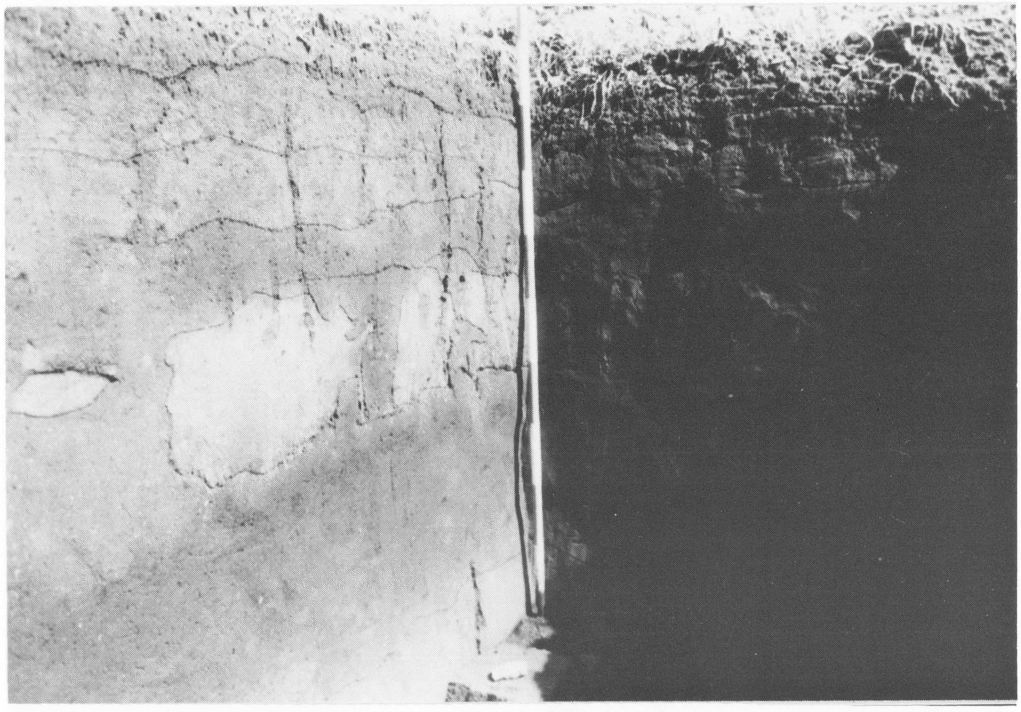
註７　註１と同じ

註８　註２と同じ

図　版

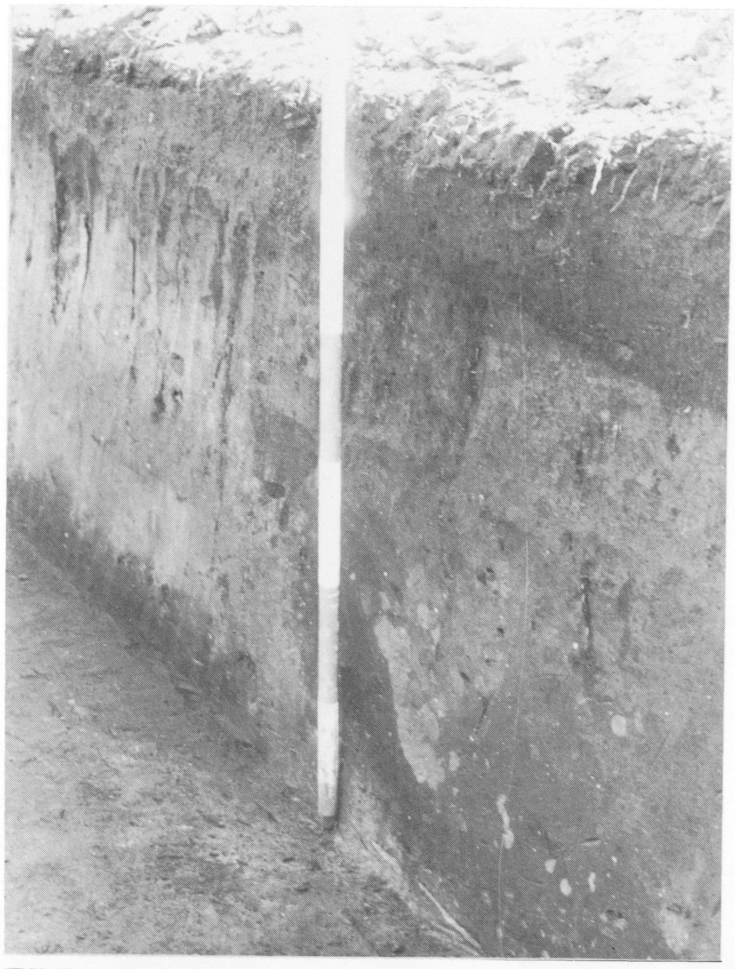
1．札元遺跡遠景(北から)

2．札元遺跡近景(南から)

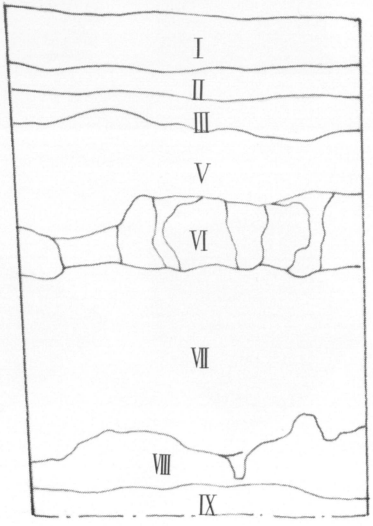


1．土　層　図

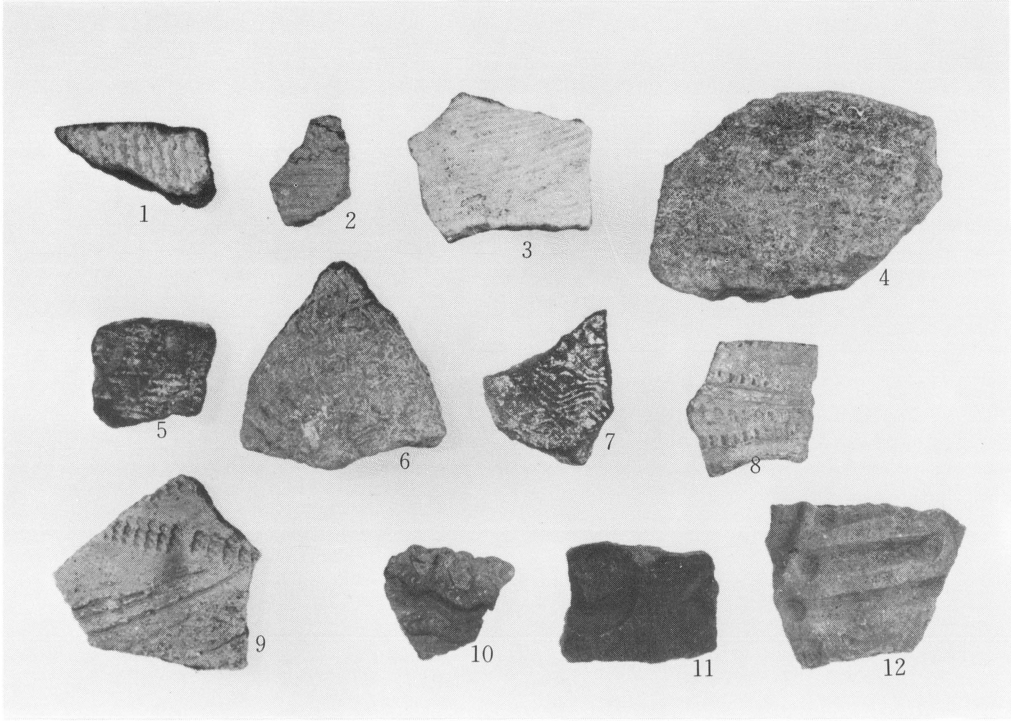
土　　層

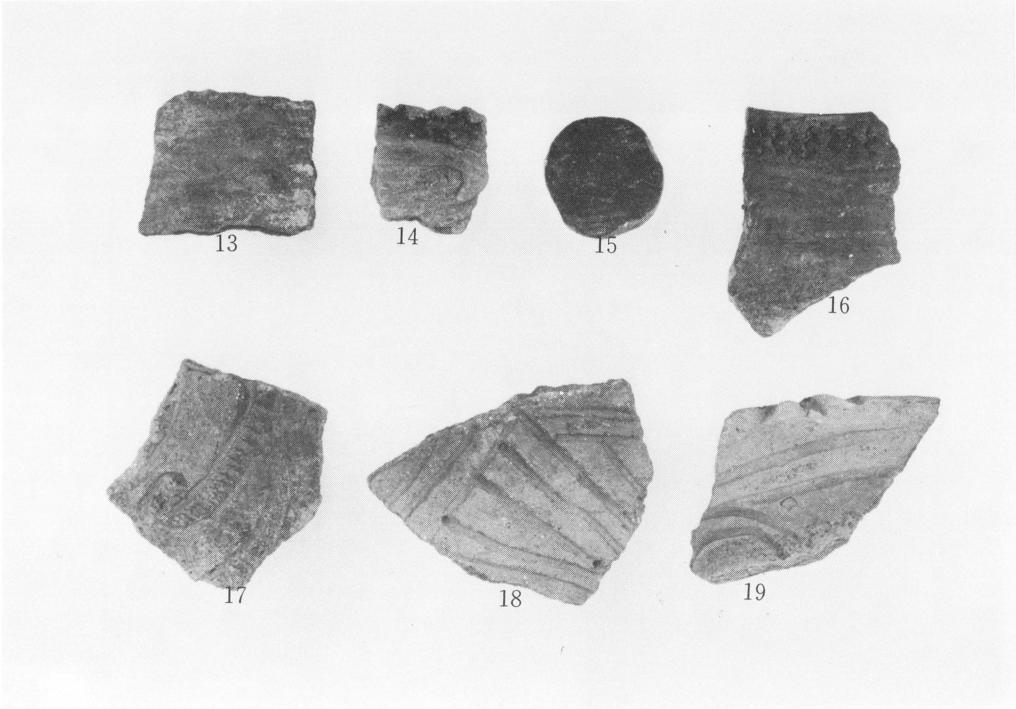


1．横　転　層

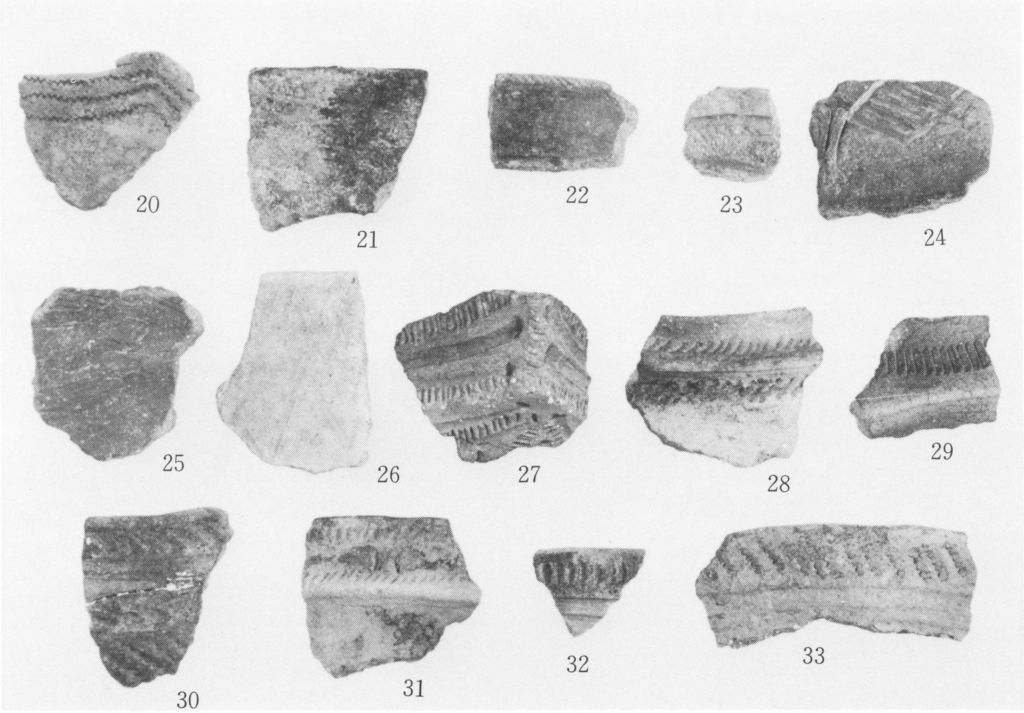


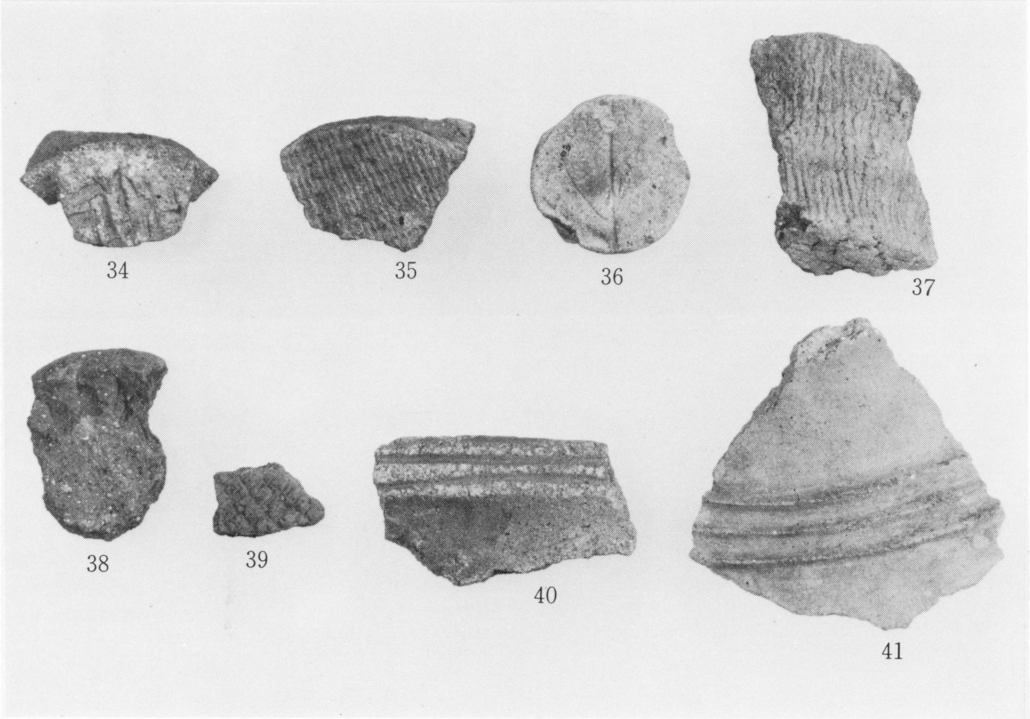
2．土　層



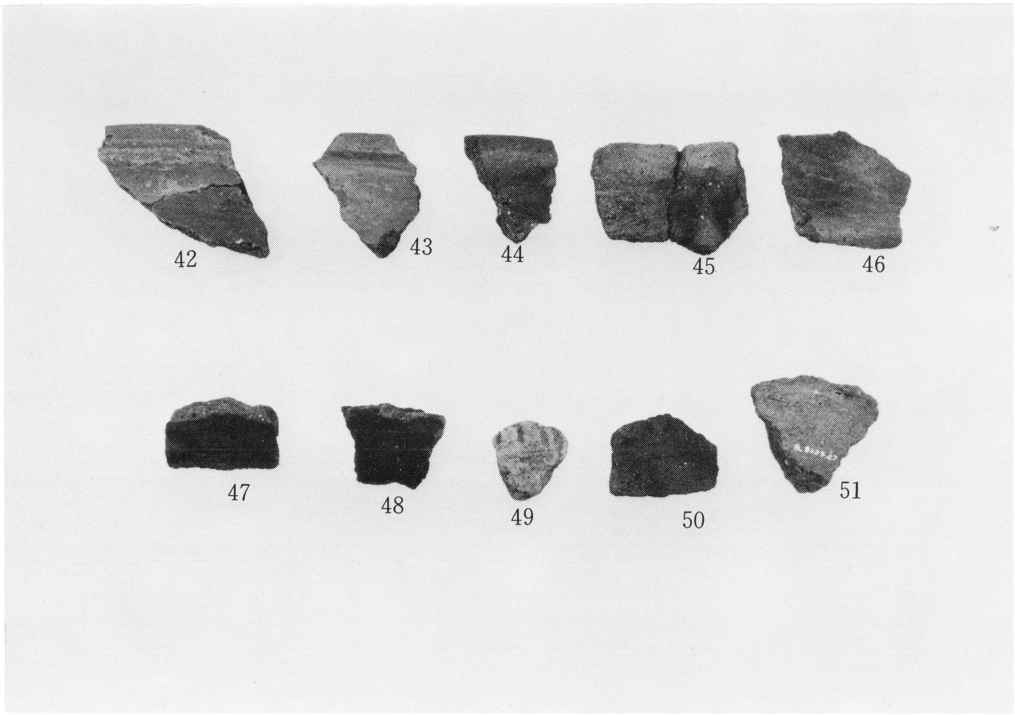


山ノ口遺跡採集土器



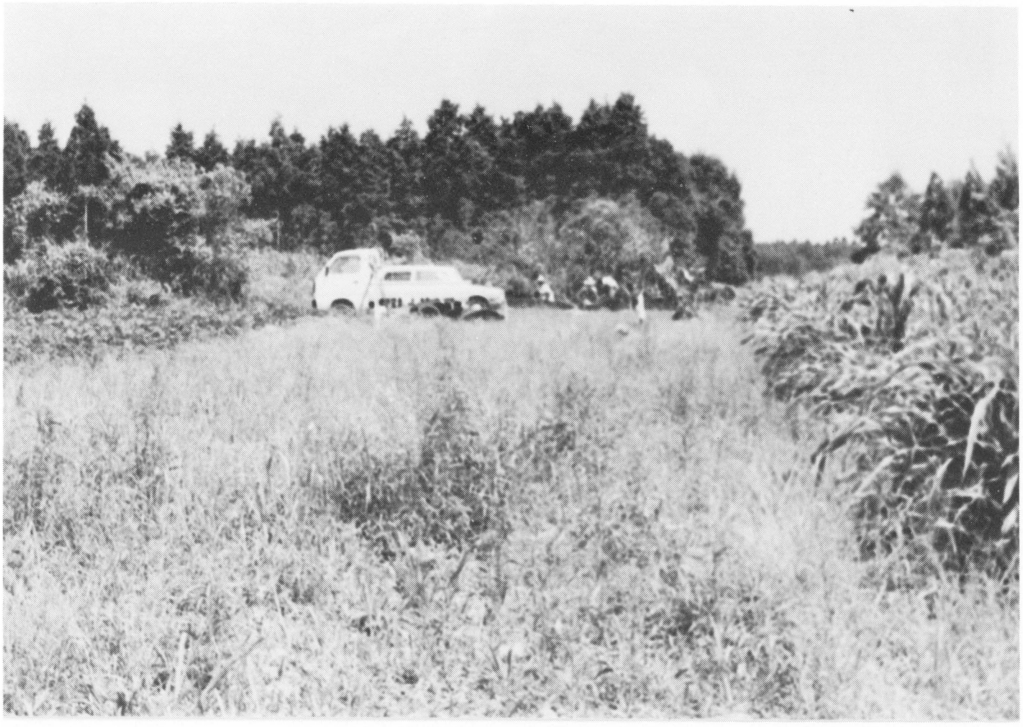


山ノ口遺跡採集土器



1．札元遺跡出土土器

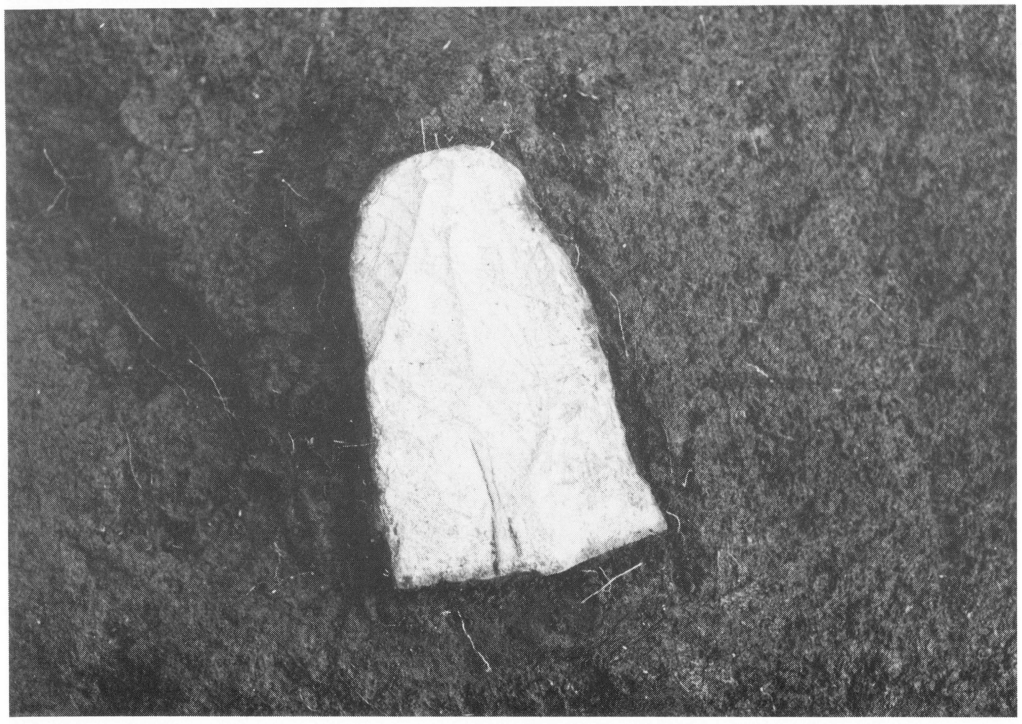
2．札元遺跡出土土器



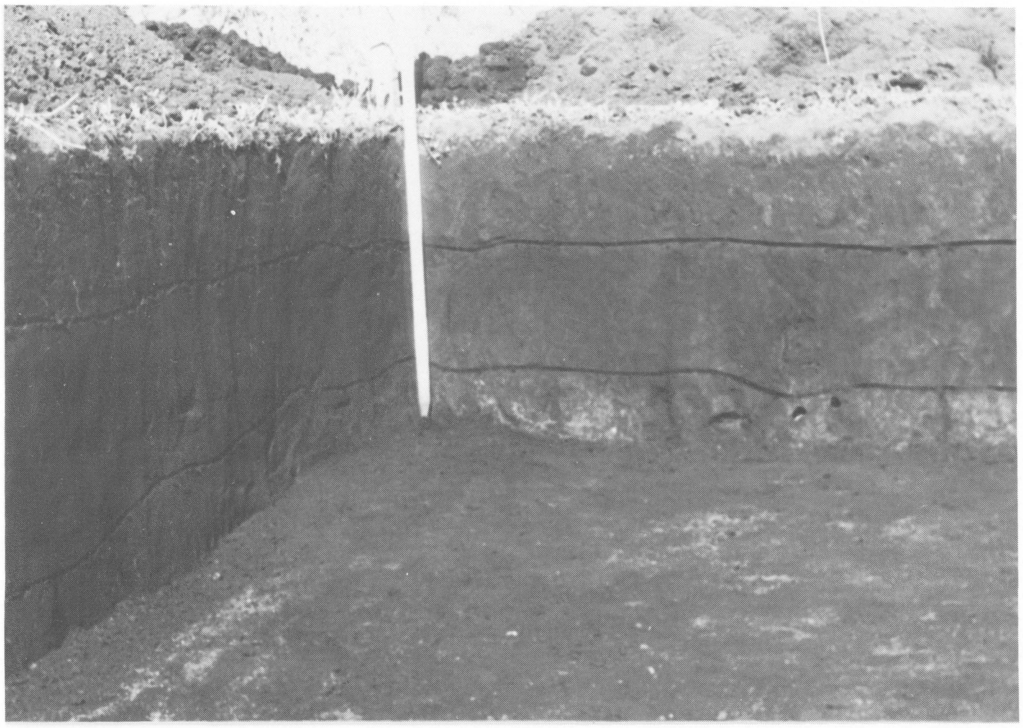
1．山原遺跡近景(西から)

2．第2トレンチ

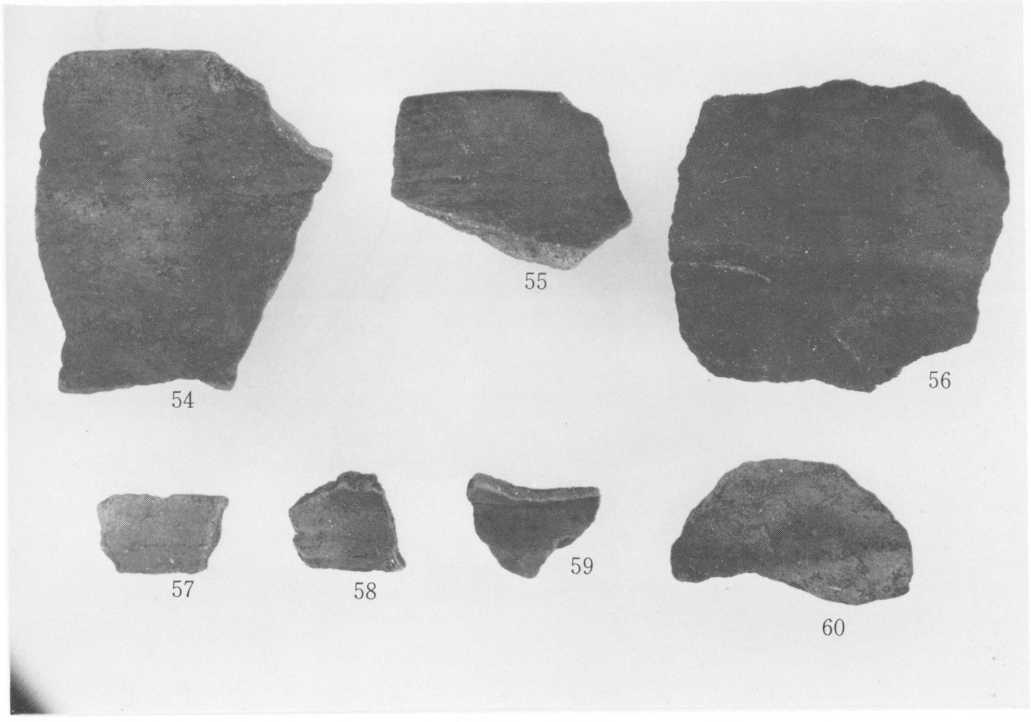
1．第1トレンチ焼土部



2．石斧出土状況



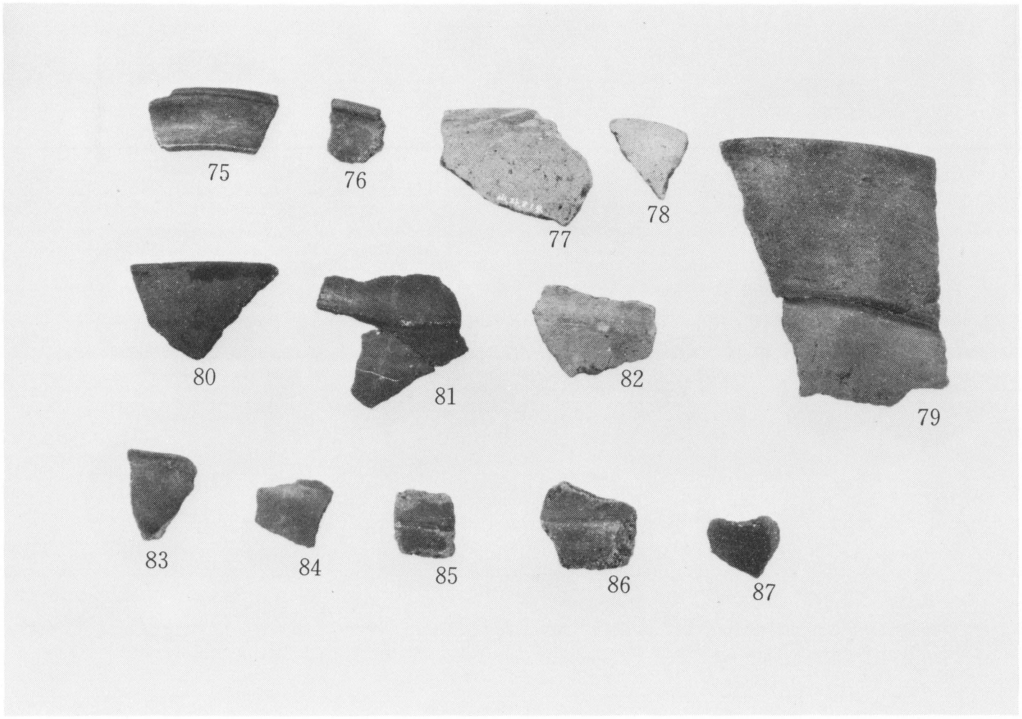
1．第2トレンチ土層図



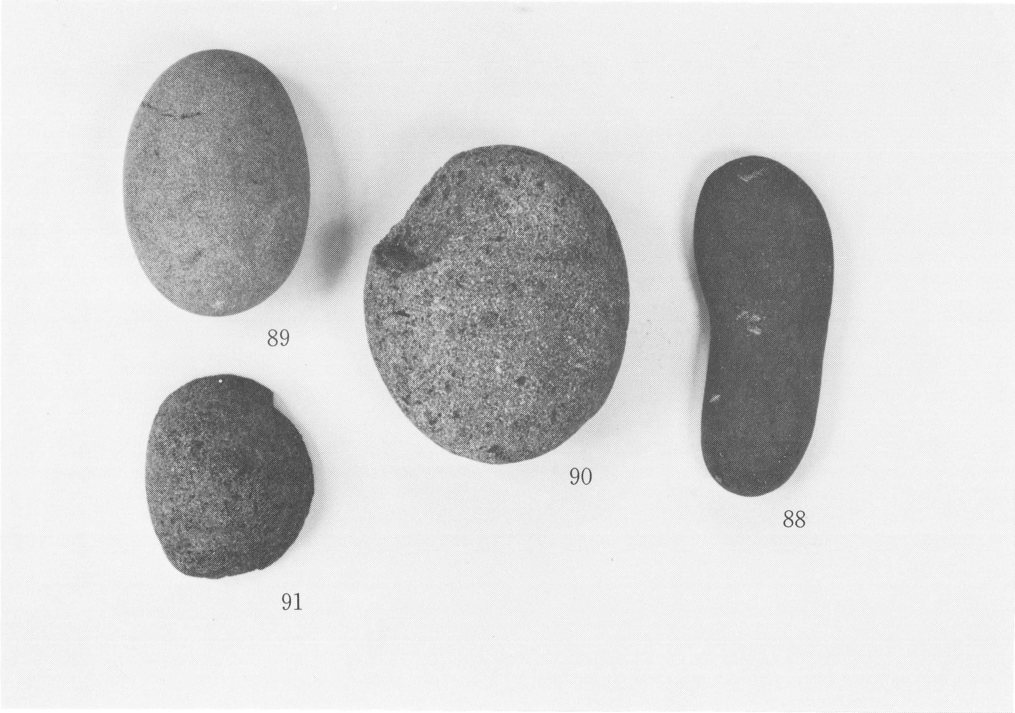
2．山原遺跡出土土器

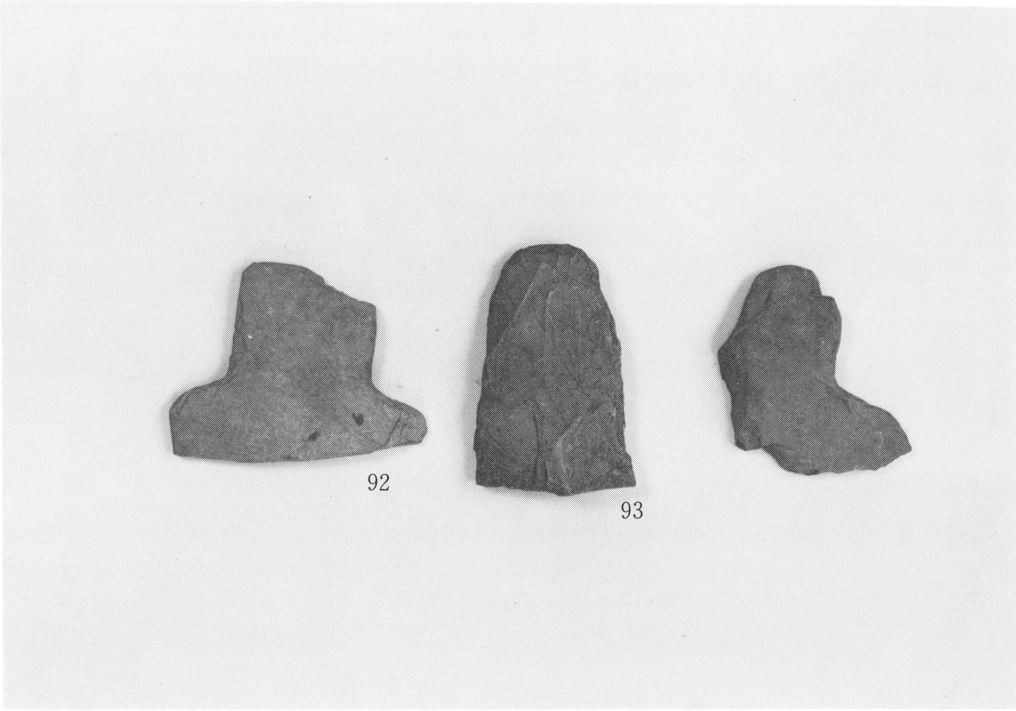
1．山原遺跡出土土器

2．No68 土器拡大



山原遺跡出土土器





山原遺跡出土石器

有明町埋蔵文化財発掘調査報告書（1）

札元遺跡・山原遺跡

１９８５年３月

発行　有明町教育委員会
〒899-74　曽於郡有明町野井倉1756

印刷　朝　日　印　刷
鹿児島市上荒田町854－1